

VMware NSX for vSphere 6.3.6 リリース ノート

VMware NSX for vSphere 6.3.6 | 2018 年 3 月 29 日リリース | ビルド 8085122

このドキュメントの[改訂履歴](#)を参照してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [NSX 6.3.6 の新機能](#)
- [バージョン、システム要件、およびインストール](#)
- [廃止および提供を中止する機能](#)
- [アップグレードに関する注意事項](#)
- [FIPS コンプライアンス](#)
- [改訂履歴](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

NSX 6.3.6 の新機能

NSX for vSphere 6.3.6 では、ユーザーから報告された複数のバグが修正されています。詳細については、[解決した問題](#)を参照してください。

以前のバージョンのリリース ノート：

- [NSX 6.3.5](#)
- [NSX 6.3.4](#)
- [NSX 6.3.3](#)
- [NSX 6.3.2](#)
- [NSX 6.3.1](#)
- [NSX 6.3.0](#)

バージョン、システム要件、およびインストール

注：

- 次の表は、推奨される VMware ソフトウェアのバージョンです。ここで推奨されるバージョンは一般的なものであり、環境に固有の推奨に優先するものではありません。
- これは、本ドキュメントが公開された時点で最新の情報です。
- NSX とその他の VMware 製品を併用する場合にサポートされる最小バージョンについては、[VMware 製品の相互運用性マトリクス](#)を参照してください。VMware はテスト結果に基づいて、サポートされる最小バージョンを定めています。

- NSX 6.3.2 と NSX 6.3.3 では、NSX の相互運用性に必要な vSphere の最小バージョンが異なります。詳細については、[VMware 製品の相互運用性マトリックス](#)を参照してください。

製品またはコンポー
ネント

推奨されるバージョン

NSX for vSphere

新たに導入する場合には、最新の NSX リリースをお勧めします。

既存の環境をアップグレードする場合は、アップグレード プランを策定する前に、NSX リリース ノートを参照して、特定の問題に関する情報を確認してください。あるいは、VMware テクニカル サポートの担当者にお問い合わせください。

vSphere

- vSphere 5.5U3 以降。
- vSphere 6.0U3 以降。vSphere 6.0U3 では、vCenter Server の再起動後に ESXi ホストの VTEP が重複するという問題が解決されています。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2144605](#) を参照してください。
- vSphere 6.5U1 以降。vSphere 6.5U1 では、EAM がメモリ不足になる問題が解決されています。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2135378](#) を参照してください。

ゲスト イントロスペ
クション (Windows)

VMware Tools のすべてのバージョンがサポートされます。一部のゲスト イントロスペクション ベースの機能には、VMware Tools の最新バージョンが必要です。

- VMware Tools に含まれるオプションの Thin Agent Network Introspection Driver コンポーネントを有効にするには VMware Tools 10.0.9 および 10.0.12 を使用します。
- NSX または vCloud Networking and Security 環境の VMware Tools をアップグレードした後に仮想マシンの動作が遅くなる問題を解決するには、VMware Tools 10.0.8 以降にアップグレードする必要があります。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2144236](#) を参照してください。
- Windows 10 には VMware Tools 10.1.0 以降を使用します。
- Windows Server 2016 には VMware Tools 10.1.10 以降を使用します。

ゲスト イントロスペ
クション (Linux)

NSX の本バージョンは、次の Linux のバージョンをサポートします。

- RHEL 7 GA (64 ビット)
- SLES 12 GA (64 ビット)
- Ubuntu 14.04 LTS (64 ビット)

NSX のインストールの前提条件については、『NSX インストール ガイド』の「[NSX のシステム要件](#)」のセクションを参照してください。

インストール手順については、『[NSX インストール ガイド](#)』または『[Cross-vCenter NSX インストール ガイド](#)』を参照してください。

廃止および提供を中止する機能

販売およびサポートの終了に関するご注意

ただちにアップグレードが必要な NSX およびその他の VMware 製品については、[VMware Lifecycle Product Matrix](#) (英語) を参照してください。

- NSX for vSphere 6.1.x は、2017 年 1 月 15 日に提供終了日 (EOA) およびジェネラル サポートの終了日 (EOGS) を迎えました。 ([VMware ナレッジベースの記事 KB2144769](#) を参照してください)
- NSX for vSphere 6.2.x のジェネラル サポートの終了日 (EOGS) は 2018 年 8 月 20 日です。
- NSX Data Security を削除：NSX 6.3.0 から、NSX Data Security 機能が削除されました。
- NSX アクティビティ モニタリング (SAM) を廃止：NSX 6.3.0 から、アクティビティ モニタリングは NSX でサポートされません。代替機能として、エンドポイントの監視を使用してください。詳細については、『NSX 管理ガイド』の「[エンドポイントの監視](#)」を参照してください。
- Web Access Terminal を削除：Web Access Terminal (WAT) は NSX 6.3.0 から削除されました。Web Access SSL VPN-Plus を設定して、NSX Edge を介してパブリック URL アクセスを有効にすることはできません。セキュリティを強化するには、SSL VPN 環境への完全なアクセス権を持つクライアントの利用をお勧めします。以前のリリースで WAT 機能を使用している場合は、6.3.0 にアップグレードする前に無効にする必要があります。
- IS-IS を NSX Edge から削除：NSX 6.3.0 以降は、[ルーティング] タブから IS-IS プロトコルを設定することはできません。
- vCNS Edge のサポートを終了：NSX 6.3.x にアップグレードする前に、NSX Edge にアップグレードする必要があります。

全般的な動作変更

vSphere Distributed Switch が複数ある環境で、その 1 つに VXLAN が設定されている場合、vSphere Distributed Switch のポート グループにすべての分散論理ルーター インターフェイスを接続する必要があります。NSX 6.3.6 以降、ユーザー インターフェイスと API でこの構成が強制されます。以前のリリースでは、正しくない設定が可能となっていました。

API の削除と動作の変更

API エラー処理の変更

NSX 6.3.5 では、エラー処理が次のように変更されています。

- API 要求により NSX Manager でデータベース例外が発生した場合、「500 Internal server error」が返されます。以前のリリースでは、NSX Manager で要求の処理に失敗しても「200 OK」と返していました。
- 要求の本文が空の API 要求を送信すると、「400 Bad request」が返されます。以前のリリースでは、NSX Manager が「500 Internal server error」と返していました。
- API の GET /api/2.0/services/policy/securitygroup/{ID}/securitypolicies で間違ったセキュリティ グループを指定すると、「404 Not found」が返されます。以前のリリースでは、NSX Manager が「200 OK」と返していました。

バックアップとリストアの API のデフォルトの変更

NSX 6.3.3 以降では、ユーザー インターフェイスのデフォルトと一致するように、バックアップとリストアの 2 つのパラメータのデフォルトが変更されました。以前は、`passiveMode` と `useEPSV` のデフォルトは `false` でしたが、現在は `true` になっています。この変更は次の API に影響します。

- PUT /api/1.0/appliance-management/backuprestore/backupsettings
- PUT /api/1.0/appliance-management/backuprestore/backupsettings/ftpsettings

ファイアウォール構成またはデフォルト セクションの削除

- NSX 6.3.0 以降では、デフォルト セクションが指定されていると、次のリクエストは拒否されません。DELETE /api/4.0/firewall/globalroot-0/config/layer2sections|layer3sections/sectionId
- デフォルト設定を取得するための新しいメソッドが追加されました。このメソッドの出力を使用して、設定全体または任意のデフォルト セクションを置き換えます。
 - デフォルトの設定を取得する：GET api/4.0/firewall/globalroot-0/defaultconfig
 - 設定全体を更新する：PUT /api/4.0/firewall/globalroot-0/config
 - 単一のセクションを更新する：PUT /4.0/firewall/globalroot-0/config/layer2sections|layer3sections/{sectionId}

defaultOriginate パラメータ：

NSX 6.3.0 以降では、分散論理ルーター NSX Edge アプライアンスの場合のみ、次のメソッドから `defaultOriginate` パラメータが削除されました。

- GET/PUT /api/4.0/edges/{edge-id}/routing/config/ospf
- GET/PUT /api/4.0/edges/{edge-id}/routing/config/bgp
- GET/PUT /api/4.0/edges/{edge-id}/routing/config

NSX 6.3.0 以降の分散論理ルーター Edge アプライアンスで `defaultOriginate` を `true` に設定すると失敗します。

すべての IS-IS メソッドを NSX Edge ルーティングから削除：

- GET/PUT/DELETE /4.0/edges/{edge-id}/routing/config/isis
- GET/PUT /4.0/edges/{edge-id}/routing/config

CLI の削除と動作の変更

NSX Controller ノードで、サポートされていないコマンドを使用しないでください。

NSX Controller ノードで NTP と DNS を設定する場合に、ドキュメントに記載されていないコマンドが使用できてしまう場合があります。ただし、これらのコマンドはサポートされていないため、NSX Controller ノードでは使用しないでください。『NSX CLI ガイド』に記載されているコマンドのみを使用してください。

アップグレードに関する注意事項

- [アップグレードに関する全般的な注意事項](#)
- [NSX コンポーネントのアップグレードに関する注意事項](#)
- [FIPS のアップグレードに関する注意事項](#)

注：インストールとアップグレードに影響する既知の問題については、「[インストールとアップグレードに関する既知の問題](#)」セクションを参照してください。

アップグレードに関する注意事項

- NSX をアップグレードするには、ホスト クラスタのアップグレード（ホストの VIB のアップグレード）を含む、完全な NSX アップグレードを実行する必要があります。手順については、『[NSX アップグレードガイド](#)』の「[ホスト クラスタのアップグレード](#)」セクションを参照してください。
- システム要件：NSX のインストールとアップグレードのシステム要件については、NSX ドキュメントの「[NSX のシステム要件](#)」セクションを参照してください。
- NSX 6.x からのアップデート：VMware NSX のアップグレードの詳細については、[VMware 製品の相互運用性マトリクス](#)を参照してください。
- Cross-vCenter NSX のアップグレードについては、[NSX アップグレードガイド](#)を参照してください。
- ダウングレードはサポートされない：
 - アップグレードの前に、必ず NSX Manager をバックアップしてください。
 - NSX を正常にアップグレードしたあとは、ダウングレードすることはできません。
- NSX 6.3.x へのアップグレードが成功したかを確認するには、[ナレッジベースの記事 KB2134525](#) を参照してください。
- vCloud Networking and Security から NSX 6.3.x へのアップグレードはサポートされません。まず、サポート対象の 6.2.x リリースにアップグレードする必要があります。
- 相互運用性：アップグレードを行う前に、関連する VMware 製品を[VMware 製品の相互運用性マトリクス](#)で確認してください。
 - vSphere 6.5a 以降へのアップグレード：vSphere 5.5 または 6.0 から vSphere 6.5a 以降にアップグレードする場合は、最初に NSX 6.3.x にアップグレードする必要があります。『[NSX アップグレードガイド](#)』の「[NSX 環境での vSphere のアップグレード](#)」を参照してください。
注：NSX 6.2.x には、vSphere 6.5 との互換性はありません。
 - NSX 6.3.3 以降へのアップグレード：NSX 6.3.2 と NSX 6.3.3 では、NSX の相互運用性をサポートする vSphere の最小バージョンが異なります。詳細については、[VMware 製品の相互運用性マトリクス](#)を参照してください。
- パートナー サービスとの互換性：ゲスト イントロスペクションまたはネットワーク イントロスペクション用に VMware のパートナー サービスをサイトで使用している場合、アップグレード前に[VMware 互換性ガイド](#)を参照して、アップグレードする NSX のバージョンとベンダーのサービスに互換性があることを確認してください。
- Networking and Security プラグイン：NSX Manager をアップグレードした後は、vSphere Web Client からログアウトし、再度ログインする必要があります。NSX プラグインが正しく表示されない場合には、ブラウザのキャッシュと履歴を消去してください。Networking and Security プラグインが vSphere Web Client に表示されない場合には、[NSX アップグレードガイド](#)の説明に従って、vSphere Web Client サーバをリセットしてください。
- ステートレス環境：ステートレス ホスト環境では、NSX アップグレード プロセスで、新しい VIB がホスト イメージ プロファイルに事前追加されます。ステートレス ホストで NSX のアップグレードを行う場合は、次の手順を実行してください。

NSX 6.2.0 より前のバージョンでは、NSX Manager 上に 1 つの URL があり、そこから特定バージョンの ESX ホストの VIB を見つけることができました。つまり、管理者は NSX バージョンに関係なく、1 つの URL を知っておくだけで済みました。NSX 6.2.0 以降では、新しい NSX VIB を異なる URL で利用できません。正しい VIB を見つけるには、以下の手順を実行する必要があります。

 1. 新しい VIB URL を `https://<NSXManager>/bin/vdn/nwfabric.properties` から見つけます。
 2. 必要な ESX ホスト バージョンの VIB を、対応する URL から取得します。
 3. 取得した VIB をホスト イメージ プロファイルに追加します。

NSX コンポーネントのアップグレードに関する注意事項

NSX Manager のアップグレード

- **重要** : NSX 6.2.0、6.2.1 または 6.2.2 から NSX 6.3.5 以降にアップデートする場合は、アップデートを開始する前に、既知の問題への回避策を実行しておく必要があります。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB000051624](#) を参照してください。
- hmac-sha1 はサポートされていないため、NSX バックアップに SFTP を使用する場合は、NSX 6.3.x へのアップデート後に hmac-sha2-256 に変更してください。NSX 6.3.x でサポートされるセキュリティ アルゴリズムについては、[VMware のナレッジベースの記事 KB2149282](#) を参照してください。
- NSX 6.3.3 から NSX 6.3.4 以降にアップデートする場合は、[VMware のナレッジベースの記事 KB2151719](#) の回避策を行ってからアップデートしてください。
- NSX Manager を NSX 6.3.6 にアップグレードすると、アップグレード中にバックアップが自動的に作成され、ローカルに保存されます。詳細については、[NSX Manager のアップグレード](#) を参照してください。

コントローラのアップグレード

- NSX 6.3.3 では、NSX Controller アプライアンスのディスク サイズが 20 GB から 28 GB に変わりました。
- NSX 6.3.3 にアップグレードするには、NSX Controller クラスタに 3 台のコントローラ ノードが必要です。コントローラが 3 台未満の場合は、アップグレードを開始する前にコントローラを追加する必要があります。詳細については、[NSX Controller クラスタのデプロイ](#) を参照してください。
- NSX 6.3.3 では、NSX Controller の基盤となるオペレーティング システムが変わりました。NSX 6.3.2 以前から NSX 6.3.3 以降にアップデートする場合、インプレース アップグレードは実行されません。既存のコントローラが 1 度に 1 つずつ削除され、同じ IP アドレスを使用して新しい Photon OS ベースのコントローラが展開されます。

コントローラを削除すると、関連する DRS の非アフィニティ ルールも削除されます。vCenter Server で新しい非アフィニティ ルールを作成して、新しいコントローラ仮想マシンが同じホストに配置されないようにする必要があります。

コントローラのアップグレードの詳細については、[NSX Controller クラスタのアップグレード](#) を参照してください。

ホスト クラスタのアップグレード

- NSX 6.3.3 で、NSX VIB 名が変更されました。NSX 6.3.3 をインストールすると、esx-vxlan と esx-vsip VIB が esx-nsxv に変更されます。
- アップグレードおよびアンインストールでホストの再起動が不要 : vSphere 6.0 以降では、NSX 6.3.x へのアップデート後、NSX VIB を変更する際の再起動が不要になりました。代わりに、VIB を変更するには、ホストをメンテナンス モードにする必要があります。

次のタスクを実行する場合、ホストの再起動は必須ではありません。

- ESXi 6.0 以降での NSX 6.3.0 から NSX 6.3.x へのアップデート。
- ESXi を 6.0 から 6.5.0a 以降にアップデートした後に必要となる NSX 6.3.x VIB のインストール。
注 : ESXi のアップグレード時には引き続きホストの再起動が必要になります。

- ESXi 6.0 以降での NSX 6.3.x VIB のアンインストール。

次のタスクを実行する場合、ホストの再起動は必須です。

- NSX 6.2.x 以前から NSX 6.3.x へのアップグレード (すべての ESXi バージョン) 。
- ESXi 5.5 での NSX 6.3.0 から NSX 6.3.x へのアップデート。
- ESXi を 5.5 から 6.0 以降にアップグレードした後に必要となる NSX 6.3.x VIB のインストール。

- ESXi 5.5 での NSX 6.3.x VIB のアンインストール。
- ホストがインストール状態のままになることがある：大規模な NSX 環境のアップグレードを実行中に、ホストが長時間にわたってインストール状態のままになることがあります。これは、以前の NSX VIB のアンインストール関連の問題が原因で発生する可能性があります。このような場合、このホストに関連づけられている ESX Agent Manager (EAM) スレッドが vSphere Web Client のタスク リストにスタック状態としてレポートされます。
回避策：次の手順を実行します。

- vSphere Web Client を使用して vCenter Server にログインします。
- スタックしている EAM タスクを右クリックして、キャンセルします。
- vSphere Web Client から、クラスタ上で [解決] を発行します。スタックしたホストの表示が InProgress になります。
- ホストにログインして再起動し、ホストのアップグレードを強制的に実行します。

NSX Edge のアップグレード

- NSX 6.3.0 では、NSX Edge アプライアンスのディスク サイズが変更されました。
 - Compact、Large、Quad Large：584 MB のディスク 1 台 + 512 MB のディスク 1 台
 - XLarge：584 MB のディスク 1 台 + 2 GB のディスク 1 台 + 256 MB のディスク 1 台
- NSX Edge アプライアンスをアップグレードする前に NSX 用ホスト クラスタを準備する必要があります：NSX 6.3.0 以降では、NSX Manager と Edge 間で、VIX チャネルを経由した管理プレーン通信はサポートされません。メッセージ バス チャネル経由のみがサポートされます。NSX 6.2.x 以前から NSX 6.3.0 以降にアップグレードする場合、NSX Edge アプライアンスのデプロイ先のホスト クラスタが準備されていることと、メッセージング インフラストラクチャのステータスが正常であることを確認する必要があります。NSX 用ホスト クラスタが準備されていない場合、NSX Edge アプライアンスのアップグレードに失敗します。詳細については、『NSX アップグレード ガイド』の [NSX Edge のアップグレード](#) を参照してください。
- Edge Services Gateway (ESG) のアップグレード：
NSX 6.2.5 以降、リソース予約は NSX Edge のアップグレード時に実行されるようになりました。十分なりソースのないクラスタで vSphere HA が有効になっている場合、vSphere HA の制約に違反するためアップグレードに失敗することがあります。
そのようなアップグレードの失敗を回避するには、ESG をアップグレードする前に次の手順を実行します。

インストール時またはアップグレード時に値を明示的に設定していない場合は、次のリソース予約が NSX Manager で使用されます。

| NSX Edge フォーム ファクタ | CPU 予約 | メモリの予約 |
|-----------------------|----------|---------|
| Compact | 1000 MHz | 512 MB |
| Large | 2000 MHz | 1024 MB |
| Quad Large | 4000 MHz | 2048 MB |
| X-Large | 6000 MHz | 8192 MB |

1. インストール環境が vSphere HA 向けのベスト プラクティスに従っていることを常に確認します。[ナレッジベースの記事 KB1002080](#) を参照してください。

2. NSX チューニング設定 API を使用します。

PUT `https://<NSXManager>/api/4.0/edgePublish/tuningConfiguration`

`edgeVCpuReservationPercentage` と `edgeMemoryReservationPercentage` の値が、フォーム ファクタで使用可能なリソースを超えていないことを確認します（デフォルト値は上の表を参照）。

- vSphere HA が有効で Edge を展開している環境では、vSphere の [仮想マシンの起動] オプションを無効にする：vSphere HA が有効で Edge が展開されているクラスタでは、NSX Edge の 6.2.4 以前のバージョンを 6.2.5 以降にアップグレードした後、vSphere の [仮想マシンの起動] オプションを無効にする必要があります。それには、vSphere Web Client を開き、NSX Edge 仮想マシンが常駐する ESXi ホストを見つけ、[管理] > [設定] の順にクリックし、[仮想マシン] で [仮想マシンの起動/シャットダウン] を選択して、[編集] をクリックします。次に、仮想マシンが手動モードにあることを確認します。[自動起動/シャットダウン] リストに追加されていないことを確認してください。
- NSX 6.2.5 以降にアップグレードする前に、ロード バランサの暗号化リストがコロン区切りであることを確認します。暗号化リストにカンマなど別の区切り文字が使用されている場合は、`https://nsxmgr_ip/api/4.0/edges/EdgeID/loadbalancer/config/applicationprofiles` への PUT 呼び出しを実行し、`<clientSsl/>` および `<serverSsl/>` の各 `<ciphers/>` リストをコロン区切りのリストに置換します。たとえば、要求本文の関連セグメントは次のようになります。すべてのアプリケーション プロファイルに対して次の手順を繰り返します。

```
<applicationProfile>
  <name>https-profile</name>
  <insertXForwardedFor>>false</insertXForwardedFor>
  <sslPassthrough>>false</sslPassthrough>
  <template>HTTPS</template>
  <serverSslEnabled>>true</serverSslEnabled>
  <clientSsl>
    <ciphers>AES128-SHA:AES256-SHA:ECDHE-ECDSA-AES256-SHA</ciphers>
    <clientAuth>ignore</clientAuth>
    <serviceCertificate>certificate-4</serviceCertificate>
  </clientSsl>
  <serverSsl>
    <ciphers>AES128-SHA:AES256-SHA:ECDHE-ECDSA-AES256-SHA</ciphers>
    <serviceCertificate>certificate-4</serviceCertificate>
  </serverSsl>
  ...
</applicationProfile>
```

- vRealize Operations Manager (vROPs) 6.2.0 より前のバージョンでロード バランシングされたクライアントに正しい暗号バージョンを設定する：vROPs 6.2.0 より前のバージョンの vROPs プール メンバーは TLS バージョン 1.0 を使用しています。このため、NSX のロード バランサの設定で監視の拡張機能を編集し、`"ssl-version=10"` と明示的に指定する必要があります。手順については、『NSX 管理ガイド』の「[サービス モニターの作成](#)」を参照してください。

```
{
  "expected" : null,
  "extension" : "ssl-version=10",
  "send" : null,
  "maxRetries" : 2,
  "name" : "sm_vrops",
  "url" : "/suite-api/api/deployment/node/status",
  "timeout" : 5,
  "type" : "https",
```

```
    "receive" : null,  
    "interval" : 60,  
    "method" : "GET"  
}
```

ゲスト イントロスペクションのアップグレード

- ゲスト イントロスペクション仮想マシンで、マシンの XML ファイルに追加ホストの識別情報が含まれるようになりました。ゲスト イントロスペクション仮想マシンにログインするときに、`/opt/vmware/etc/vami/ovfEnv.xml` ファイルにホスト識別情報が含まれている必要があります。

FIPS のアップグレードに関する注意事項

NSX 6.3.0 より前のバージョンから NSX 6.3.0 以降のバージョンにアップグレードする場合は、アップグレードが完了するまで FIPS モードを有効にしないでください。アップグレードが完了する前に FIPS モードを有効にすると、アップグレード済みのコンポーネントとアップグレードされていないコンポーネント間の通信が中断されます。詳細については、『NSX アップグレード ガイド』の「[FIPS モードと NSX アップグレードの理解](#)」を参照してください。

- OS X Yosemite および OS X El Capitan でサポートされる暗号：OS X 10.11 (El Capitan) で SSL VPN クライアントを使用している場合は、AES128-GCM-SHA256、ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256、ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA38、AES256-SHA、および AES128-SHA 暗号を使用して接続することができ、OS X 10.10 (Yosemite) を使用している場合は AES256-SHA および AES128-SHA 暗号のみを使用して接続することができます。
- NSX 6.3.x へのアップグレードが完了するまでは FIPS を有効にしないでください。詳細については、『NSX アップグレード ガイド』の「[FIPS モードと NSX アップグレードの理解](#)」を参照してください。
- FIPS モードを有効にする前に、パートナーのソリューションが FIPS モードの認定を受けていることを確認してください。『[VMware 互換性ガイド](#)』と、関連するパートナーのドキュメントを参照してください。

FIPS コンプライアンス

- NSS と OpenSwan：NSX Edge の IPsec VPN では、Mozilla NSS 暗号モジュールを使用しています。本バージョンの NSX では、重大なセキュリティ問題に対応するため、FIPS 140-2 認証を受けていない新しいバージョンの NSS を使用しています。VMware では、このモジュールが正常に動作することを確認していますが、これは公式な検証ではありません。
- NSS とパスワードの入力：NSX Edge のパスワード ハッシュで Mozilla NSS 暗号モジュールを使用しています。本バージョンの NSX では、重大なセキュリティ問題に対応するため、FIPS 140-2 認証を受けていない新しいバージョンの NSS を使用しています。VMware は、このモジュールが正常に動作することを確認していますが、これは公式な検証ではありません。
- コントローラと VPN のクラスタリング：NSX Controller は、IPsec VPN を使用してコントローラ クラスタに接続します。IPsec VPN では、VMware Linux カーネル暗号モジュール (Photon 1 環境) を使用していますが、このモジュールは現在 CMVP 認証を申請中です。

ドキュメントの改訂履歴

2018年3月29日：初版。

2018年5月2日：第2版。解決した問題 1993384 について記載しました。

2018年6月4日：第3版。解決した問題 2058770 について記載しました。

2018年7月25日：第4版。既知の問題 2019124 および 2021080 を追加しました。

2018年9月5日：第5版。既知の問題 2186968 について記載しました。

2019年5月13日：第6版。「ホスト クラスタのアップグレード」セクションを更新しました。

解決した問題

解決した問題には、次のトピックが含まれます。

- [解決した一般的な問題](#)
- [インストールとアップグレードに関する解決した問題](#)
- [NSX Manager に関する解決した問題](#)
- [NSX Controller に関する解決した問題](#)
- [論理ネットワークと NSX Edge に関する解決した問題](#)
- [セキュリティ サービスに関する解決した問題](#)

解決した一般的な問題

- **解決した問題 2058770**：vCenter Server でログイン イベントが過剰に発生し、vCenter Single Sign-On サーバの負荷が高くなる
vCenter Single Sign-On ユーザーが短期間で大量の NSX API 要求を送信すると、vCenter Single Sign-On サーバでログイン イベントが過剰に発生し、負荷が高くなります。これにより、動作が遅くなる可能性があります。

- **解決した問題 2003765**：物理 TOR デバイスがリセット/再起動されるか、デバイスの電源が入れ直されると、NSX Controller の TOR マネージャがアップデートを送信できない
TOR の再ロード後、TOR OVSDB テーブルに仮想マシンのリモート MAC が見つかりません。

回避策：すべての NSX Controller を再起動します。詳細については、VMware のナレッジベースの記事 [KB52074](#) を参照してください。

- **解決した問題 2014220**：Netcpa モニターを「init」グループの直下で実行できない
ESXi 6.5 upgrade 1 にアップグレードした後にホストが応答不能になります。「init」グループではなく、「netcpa」グループで netcpa モニターを実行してください。
- **解決した問題 2023494**：Dell プラグインのあとで NSX プラグインをデプロイすると、vSphere Web Client に「使用できる NSX Manager がありません」というエラーが表示される
アップグレード後に、「使用できる NSX Manager がありません」というエラーが vSphere Web Client に表示されます。
- **解決した問題 2073125**：アンチウイルス パートナー ソリューションのクラスタへの展開に失敗し、サービス仮想マシンの状態が「不明」のままとなる
サービス仮想マシンの状態が「不明」のままになりますが、セキュリティ グループのセキュリティ ポリシーが適用されている場合は EICAR ウイルスの検出機能が動作し、ホストで実行されているエージェントによって想定どおりに環境が保護されます。
- **解決した問題 2021080**：ホスト ファイアウォール ルールセット エラーが発生し、ホストの再起動に失敗する
ホストと vCenter Server との接続が失われ、再接続に失敗します。ホスト上で操作を実行することはできません。

インストールとアップグレードに関する解決した問題

- **解決した問題 2035026**：Edge のアップグレードで、ネットワークが 40~50 秒停止する

Edge のアップグレードで、40~50 秒ほどネットワークが停止します。

- 解決した問題 2058636：NSX 6.3.5 へのアップグレード後、特定の BGP 構成で、分散論理ルーターと ESG 間のルーティング ループが原因の接続問題が発生する
ルーティング ループが原因で接続の問題が発生します。
- 解決した問題 1977797：NSX 6.2.2 から NSX 6.3.x にアップデートすると、vSphere Web Client にホストにエラーが表示される
NSX Manager を NSX 6.2.2 から NSX 6.3.x にアップデートした後、vSphere Web Client に「内部サーバ エラー」と、ホスト クラスタ エラーが表示されます。

NSX Manager に関する解決した問題

- 解決した問題 2012045：読み取り専用ファイル システム モードの Edge が原因で、NSX Manager の CPU の使用率が高くなる
Edge から読み取り専用ファイル システム イベントが大量に送信され、CPU の使用率が 100% になるため、NSX Manager の応答が遅くなります。
- 解決した問題 1995891：プライマリ NSX Manager で行った変更がセカンダリ NSX Manager に同期されない
プライマリ NSX Manager からセカンダリ NSX Manager を（ロールがSECONDARY のまま）削除しても、セカンダリ NSX Manager にアップデートを受信していないことが表示されません。
- 解決した問題 1983902：大規模な環境で、NSX Manager が再起動した後、netcpad がすぐに vsfwd に接続されない
大規模な環境で、NSX Manager が再起動した後、netcpad がすぐに vsfwd に接続されません。これにより、データパスに影響が及ぶことはありません。操作を行わなくても 13 分後にシステムがリカバリします。

NSX Controller に関する解決した問題

- 解決した問題 2003453：コントローラ ログにブリッジの「Fail to add/delete a mac record MacRecord for non-existing bridge instance.」というエラーが大量に記録される
シャーディングが変更されたとき、ブリッジによるコントローラへの参加の送信に失敗します。

論理ネットワークと NSX Edge に関する解決した問題

- 解決した問題 1753621：プライベート ローカル AS を含む Edge が EBGP ピアへのルートを送信すると、送信された BGP ルーティング更新からすべてのプライベート AS パスが削除される
NSX for vSphere には現在、AS パスにプライベート AS パスのみが含まれている場合に、フル AS パスが eBGP ネイバーと共有されないようにする制限があります。これは通常の動作ですが、管理者がプライベート AS パスを外部 BGP ネイバーと共有したい場合には問題となります。この修正により、外部 BGP ピアとプライベート AS パスを共有できるように動作を変更できます。この機能はデフォルトで、プライベート ASN を削除します。これは NSX for vSphere の以前のバージョンに合わせた動作です。
- 解決した問題 2014400：Edge のファイアウォール機能を無効にすると、スタンバイ NSX Edge が IPv6 トラフィックへの応答を開始する
NSX Edge で IPv6 が有効な場合、フェイルオーバーがトリガされると、上流のデバイスがスタンバイ Edge の MAC アドレスで更新されるため、North - South トラフィックが誤った Edge へ転送されてしまうことがあります。
- 解決した問題 2018810： IPv6 が有効な場合、NSX Edge で高可用性フェイルオーバーを開始すると、ネイバー要請メッセージが送信されず、その結果トラフィックが停止する
NSX Edge より下流からの仮想マシンのトラフィックが、結果として停止します。
- 解決した問題 2055195：NSX Edge で IPv6 スタティック ルーティングを設定するときに、ルートに /128 プリフィックスが含まれていると、フォワーディング テーブルにルートが表示されない場合がある

/128 プリフィックスがあると、再設定で IPv6 スタティック ルートの設定が機能しない場合があります。

- **解決した問題 2069428** : NSX Edge の IPv6 インターフェイスまたはサブインターフェイスを無効にすると、Edge が再起動する
NSX Edge でスタティック ルートに設定されているネクスト ホップの範囲内にある IPv6 インターフェイスまたはサブインターフェイスを無効にすると、Edge が再起動します。NSX Edge は、IPv6 ルートの再帰をサポートしていません。

回避策 : ネクスト ホップが vNIC またはサブインターフェイスの IPv6 アドレス範囲内にあるスタティック ルートを削除して、再試行します。

- **解決した問題 1976378** : vCNS Edge 5.5.4 から NSX 6.3.6 にアップグレードした後、ユーザーが Health-Check-Monitor ポートを設定できず、vCloud Director から直接変更することもできないユーザーが Health-Check-Monitor ポートを設定できなくなります。また、vCloud Director から直接変更することもできません。

回避策 : API 4.0 の GET でプール メンバーの XML 設定を取得し、DELETE で古いプールを Edge から削除して、PUT で API 4.0 XML 設定を Edge に戻します。

- **解決した問題 1967402** : Edge アプライアンスで、脆弱な古いバージョンの tcpdump が使用されている
Edge のパケット キャプチャ CLI は、tcpdump パッケージを使用してパケットのキャプチャと表示を行います。使用される tcpdump パッケージ (v4.9.0) に、最新バージョンで解決されている複数の脆弱性が存在します。このため、パケット キャプチャ CLI を使用すると、CLI ユーザーが攻撃を受ける可能性があります。

- **解決した問題 1993384** : SSL VPN クライアントが IP アドレス プールから IP アドレスを取得できない
SSL VPN クライアントがサーバに自動で再接続するとき、クライアントは、IP アドレス プールから IP アドレスが割り当てられていないために、プライベート ネットワークに接続できません。また、IP アドレス プールからクライアントに割り当てられた以前の IP アドレスは消去されません。

- **解決した問題 2019124** : パッシブ モードに切り替わった後で Edge FTP ロード バランサがパケットをドロップする
FTP パッシブ モードは、非透過モードのプールで機能しますが、透過モードでは機能しません。

セキュリティ サービスに関する解決した問題

- **解決した問題 2000749** : 特定のファイアウォール構成を行うと、分散ファイアウォールが発行状態のままになる
セキュリティ グループに除外メンバー、対象メンバーまたは「共通部分を含む動的メンバーシップ (AND)」の一部として 0.0.0.0/0 の IP セットが含まれていると、分散ファイアウォールが「発行」状態のままになります。

回避策 : IP セットの設定で /0 以外のサブネット マスクを使用してください。0.0.0.0/0 は「0.0.0.0/1,128.0.0.0/1」と定義できます。

- **解決した問題 2063415** : L2 VPN ファイアウォール ルールを設定すると、NSX Edge ログに --physdev-out の警告メッセージが記録される
「using --physdev-out in the OUTPUT, FORWARD and POSTROUTING chains for non-bridged traffic is not supported anymore.」というログ メッセージが記録されます。このメッセージは、Linux カーネル 2.6.20 から機能 (出力の保留) が削除されたために記録されます。
- **解決した問題 2040064** : セキュリティ グループへの固定メンバーとしての仮想マシンの追加に、非常に時間がかかる
セキュリティ グループに固定メンバーとして仮想マシンを追加すると、その他数多くのセキュリティ グループに接続するため、処理に時間がかかります。

- 解決した問題 2029693：分散ファイアウォールのスケーリング環境（65K 以上のルール）で、分散ファイアウォール ルールの発行に時間がかかる場合がある
ファイアウォール ルールは、発行から 10～15 分後に有効になります。

既知の問題

既知の問題には次の項目が含まれます。

- [一般的な既知の問題](#)
- [インストールとアップグレードに関する既知の問題](#)
- [NSX Manager に関する既知の問題](#)
- [NSX Controller に関する既知の問題](#)
- [論理ネットワークと NSX Edge に関する既知の問題](#)
- [セキュリティ サービスに関する既知の問題](#)
- [監視サービスに関する既知の問題](#)

一般的な既知の問題

- **問題 1960383: 短時間に大量のインベントリ オブジェクトが削除されると、タイムアウトが発生し、ネットワークの作成に失敗する**
NSX で分散仮想ポート グループの作成が遅延することで、ネットワーク作成タイムアウトが発生します。短時間で大量のインベントリ オブジェクトが削除されると、インベントリ スレッドの削除処理に時間がかかり、NSX の分散仮想ポート グループ作成タイムアウトを超える遅延となります。

回避策：インベントリ オブジェクトの削除が行われていないか、削除する数が少ないときに、ネットワークの作成を実行します。ネットワークの作成に失敗した場合は、インベントリ オブジェクトの削除が行われていないか、削除する数が少ないときに再試行します。

- **問題 1874863：ローカル認証サーバで SSL VPN サービスを無効にして有効にすると、変更後のパスワードで認証されない**
ローカル認証を使用するときに、SSL VPN サービスを無効にして再度有効にすると、変更後のパスワードでログインできません。

詳細については、[VMware ナレッジベースの記事 KB2151236](#) を参照してください。

- **問題 1702339：脆弱性スキャナが Quagga bgp_dump_routes の脆弱性 (CVE-2016-4049) をレポートすることがある**
NSX for vSphere で、脆弱性スキャナが Quagga bgp_dump_routes の脆弱性 (CVE-2016-4049) をレポートすることがあります。NSX for vSphere は Quagga を使用しますが、この脆弱性の原因となる BGP 機能は使用していません。この脆弱性アラートは、無視しても問題ありません。

回避策：問題による製品への影響はないので、パッチを適用する必要はありません。

- **問題 1740625/1749975：Mac OS での Firefox および Safari のユーザー インターフェイスの問題**
Mac OS で Firefox または Safari を使用している場合、NSX Edge の [Networking and Security] ページの [戻る] ナビゲーション ボタンが vSphere 6.5 Web Client で動作せず、Firefox ではユーザー インターフェイスがフリーズする場合があります。

回避策：Mac OS で Google Chrome を使用するか、ホーム ボタンをクリックして操作を続行します。

- **問題 1700980：セキュリティの脆弱性 CVE-2016-2775 に対応するセキュリティパッチで、クエリ名が長過ぎると lwresd でセグメント障害が発生する場合がある**
NSX 6.2.4 には BIND 9.10.4 がインストールされていますが、*named.conf* で lwresd を使用しないように設定されているので、製品に脆弱性は発生しません。

回避策：問題による製品への影響はないので、パッチを適用する必要はありません。

インストールとアップグレードに関する既知の問題

アップグレードの前に、このドキュメントの前半の「[アップグレードに関する注意事項](#)」を参照してください。

- **問題 2072696:** 有効な設定でない場合、分散論理ルーターを NSX 6.3.6 にアップグレードできない
NSX 6.3.6 では検証機能が追加されました。VXLAN と複数の vSphere Distributed Switch を持つ環境では、分散論理ルーターのインターフェイスを VXLAN が設定された vSphere Distributed Switch にのみ接続する必要があります。VXLAN が設定されていない vSphere Distributed Switch に分散論理ルーターのインターフェイスが接続していると、分散論理ルーターを NSX 6.3.6 にアップグレードできません。サポート対象外の vSphere Distributed Switch はユーザー インターフェイスに表示されなくなりました。

回避策： 誤った設定が原因で分散論理ルーターのアップグレードに失敗した場合は、API を使用して、誤った設定のインターフェイスと VXLAN が設定された vSphere Distributed Switch のポート グループを接続します。有効な設定に変更してから、アップグレードを再試行します。PUT /api/4.0/edges/{edgeId} または PUT /api/4.0/edges/{edgeId}/interfaces/{index} を使用してインターフェイスの設定を変更します。詳細については、『[NSX API ガイド](#)』を参照してください。

- **問題 2001988：** NSX ホスト クラスタのアップグレードで各クラスタをアップグレードしているときに、[ホストの準備] タブでクラスタ全体のインストール状況を確認すると、「準備ができていません」と「インストール中」が交互に表示される
NSX のアップグレードで、NSX が準備したクラスタの「アップグレードを利用可能」をクリックすると、ホストのアップグレードを開始します。DRS FULL AUTOMATIC が設定されたクラスタの場合、ホストのアップグレードがバックグラウンドで問題なく実行されているにも関わらず、インストール状況として「インストール中」と「準備ができていません」が交互に表示されます。

回避策： これはユーザー インターフェイスの問題で、無視しても問題ありません。ホスト クラスタのアップグレードが完了するまでお待ちください。

- **問題 1932907：** ゲスト イントロスペクション サービス仮想マシン (GI SVM) のアップグレードに失敗する
ゲスト イントロスペクション サービス仮想マシン (GI SVM) をアップグレードすると、インストール ステータスが「失敗」になります。この問題は、クラスタ内の 1 台以上のホストの GI SVM で発生する場合があります。

回避策：

- 1.vCenter Server から GI SVM を削除します。
- 2.GI SVM サービスのデプロイ ペインで[解決] をクリックします。GI SVM で再度デプロイが実行されません。

- **問題 1747217:** ESXi ホストの準備で **muxconfig.xml.bad** ファイルが生成されると、ゲスト イントロスペクションが正しく機能しない
muxconfig.xml 内で仮想マシンのいずれかに「vmx path」がない場合、MUX が構成ファイルを解析する際に、「xml path」プロパティが見つからないと、MUX は構成ファイルの名前を「muxconfig.xml.bad」に変更し、エラー「Error - MUX Parsing config」を USVM に送信して構成チャンネルを閉じます。

回避策： 実体のない仮想マシンを vCenter Server インベントリから削除します。

- **問題 1859572:** vCenter Server バージョン 6.0.0 で管理されている ESXi ホストから NSX バージョン 6.3.x の NSX VIB をアンインストールすると、ホストがメンテナンス モードのままになる
クラスタで NSX 6.3.x の NSX VIB をアンインストールする場合、vSphere ESX Agent Manager (EAM) サービスがホストをメンテナンス モードに切り替え、VIB をアンインストールし、ホストのメンテナンス モードを解除します。ただし、ホストを vCenter Server 6.0.0 で管理している場合、VIB のアンインストール後にホストがメンテナンス モードのままになります。VIB をアンインストールする EAM サービスは、ホストをメンテナンス モードに切り替えることはできますが、メンテナンス モードの解除に失敗します。

回避策：ホストのメンテナンス モードを手動で解除します。vCenter Server バージョン 6.5a 以降でホストを管理している場合、この問題は発生しません。

- **問題 1435504**: NSX 6.0.x または 6.1.x から 6.3.x にアップグレードした後、HTTP または HTTPS の健全性チェックが DOWN となり、その理由として「Return code of 127 is out of bounds - plugin may be missing」と表示される

NSX 6.0.x および 6.1.x リリースでは、二重引用符 (") を付けずに URL を設定すると、健全性チェックが失敗して次のエラーが発生していました。「Return code of 127 is out of bounds - plugin may be missing」この問題の回避策は、URL の入力値に二重引用符 (") を追加することでした (送信、受信、期待値のフィールドでは不要)。この問題は NSX 6.2.0 で解決されました。その結果、6.0.x または 6.1.x から 6.3.x にアップグレードすると、URL に二重引用符が追加されていた場合、健全性チェックでプール メンバーが DOWN として表示されます。

回避策：アップグレード後に、健全性チェックに関するすべての設定で、URL のフィールドから二重引用符 (") を削除します。

- **問題 1734245**：Data Security が原因で、6.3.0 へのアップグレードに失敗する
Data Security がサービス ポリシーの一部として設定されている場合、6.3.0 へのアップグレードに失敗します。アップグレードを行う前に、サービス ポリシーから Data Security を削除する必要があります。
- **問題 1801685**：6.2.x から 6.3.0 へのアップグレード後にホストへ接続できなくなり、ESXi でフィルタが表示されなくなる

NSX 6.2.x から 6.3.0 へアップグレードし、クラスタ VIB を 6.3.0 へアップグレードすると、インストールステータスが「成功」と表示され、ファイアウォールが有効と表示されている場合でも、[通信チャネルの健全性]を確認すると NSX Manager からファイアウォール エージェントへの接続および NSX Manager から制御プレーン エージェントへの接続がダウンしている则表示されます。そのため、ファイアウォール ルールの発行およびセキュリティ ポリシーの発行に失敗し、VXLAN 設定がホストに送信されなくなります。

回避策：API の POST `https://<NSX-IP>/api/2.0/nwfabric/configure?action=synchronize` を使用して、クラスタに対し、メッセージ バス同期 API 呼び出しを実行します。

API の本文：

```
<nwFabricFeatureConfig>
  <featureId>com.vmware.vshield.vsm.messagingInfra</featureId>
  <resourceConfig>
    <resourceId>{Cluster-MOID}</resourceId>
  </resourceConfig>
</nwFabricFeatureConfig>
```

- **問題 1797929**：ホスト クラスタのアップグレード後に、メッセージ バス チャンネルが停止する
ホスト クラスタ アップグレードの後、vCenter Server 6.0 (およびそれ以前) ではイベント「reconnect」が生成されず、その結果 NSX Manager はホスト上でメッセージング インフラストラクチャをセットアップしませんでした。vCenter Server 6.5 で、この問題は修正されました。

回避策：次のようにメッセージング インフラストラクチャを再同期します。

POST `https://<ip>:/api/2.0/nwfabric/configure?action=synchronize`

```
<nwFabricFeatureConfig>
  <featureId>com.vmware.vshield.vsm.messagingInfra</featureId>
  <resourceConfig>
    <resourceId>host-15</resourceId>
  </resourceConfig>
</nwFabricFeatureConfig>
```

- **問題 1768144**：以前のバージョンの NSX Edge アプライアンスで設定されたリソース予約が新しい上限を上回ると、アップグレードまたは再デプロイに失敗することがある

NSX 6.2.4 以前では、1 台の NSX Edge アプライアンスに任意の大きなリソース予約を設定でき、NSX には最大値の設定がありませんでした。NSX Manager を 6.2.5 以降にアップグレードすると、フォーム ファクタごとに最大値が新しく設定されます。既存の Edge にその最大値を上回るリソース予約（特にメモリ）が設定されていると、Edge のアップグレードまたは再デプロイ（アップグレードをトリガする）に失敗します。たとえば、6.2.5 以前の「Large」サイズの Edge にユーザーが 1,000 MB のメモリ予約を設定した場合、6.2.5 にアップグレードしてからアプライアンスのサイズを「Compact」に変更すると、ユーザーが指定したメモリ予約が新しく設定される最大値（「Compact」サイズでは 512 MB）を上回るため、アップグレードまたは再デプロイに失敗します。

NSX 6.2.5 以降で推奨されるリソース割り当てについては、「[Edge Service Gateway \(ESG\) のアップグレード](#)」を参照してください。

回避策：NSX Edge アプライアンスの REST API： PUT

`https://<NSXManager>/api/4.0/edges/<edge-Id>/appliances/` を使用して、フォーム ファクタごとに指定される最大値を上回らないようにメモリ予約を再設定します。アプライアンスにその他の変更を加える必要はありません。この操作が完了したら、アプライアンスのサイズを変更します。

- **問題 1600281**：ゲスト イントロスペクションのユニバーサル サービス仮想マシン (USVM) のインストール ステータスが [サービス デプロイ] タブで「失敗」と表示される
ゲスト イントロスペクション USVM のバックアップ データストアがオフラインになるか、アクセスできなくなると、USVM をリカバリするために再起動または再デプロイが必要になる場合があります。

回避策：USVM を再起動または再デプロイしてリカバリします。

- **問題 1660373**：vCenter Server で期限切れの NSX ライセンスが適用される
vSphere 5.5 Update 3 または vSphere 6.0.x では、NSX ライセンスに vSphere Distributed Switch が含まれません。しかし、NSX ライセンスの有効期限が切れると、vCenter Server は vSphere Distributed Switch への ESX ホストの追加を許可しません。

回避策：vSphere Distributed Switch にホストを追加するには、有効な NSX ライセンスが必要です。

- **問題 1569010/1645525**：vCenter Server 5.5 に接続したシステムで、NSX for vSphere 6.1.x から 6.2.3 へアップグレードすると、[ライセンス キーの割り当て] ウィンドウの [製品] フィールドに、「NSX for vSphere - Enterprise」などの具体的な NSX ライセンス名ではなく、総称の「NSX for vSphere」と表示される

回避策：なし。

- **問題 1636916**：vCloud Air 環境で vCloud Networking and Security (vCNS) 5.5.x から NSX 6.x へ NSX Edge をアップグレードすると、Edge ファイアウォール ルールで送信元のプロトコルの種類が「any」から「tcp:any, udp:any」に変更される
このために ICMP トラフィックがブロックされ、パケット ドロップが発生することがあります。

回避策：NSX Edge のバージョンをアップグレードする前に、Edge ファイアウォール ルールをより具体的に作成し、必要に応じてプロトコルの種類を追加し、「any」を特定の送信元ポート値に置き換えます。

- **問題 1474238**：vCenter Server のアップグレード後に vCenter Server と NSX 間の接続が失われる場合がある

vCenter Server に組み込みの SSO を使用していて、vCenter Server 5.5 を vCenter Server 6.0 にアップグレードする場合、vCenter Server と NSX 間の接続が失われる場合があります。この状態は、vCenter Server 5.5 が root ユーザー名で NSX に登録されていた場合に発生します。NSX 6.2 では、root ユーザー名を使用した vCenter Server の登録は廃止されました。

注：外部の SSO を使用している場合、変更は必要ありません。今までと同じユーザー名

(`admin@mybusiness.mydomain` など) をそのまま使用することができ、vCenter Server との接続は失われません。

回避策：root の代わりにユーザー名 `administrator@vsphere.local` を使用して、vCenter Server を NSX に登録します。

- **問題 1375794:** パワーオフする前に、エージェント仮想マシン (SVA) のゲスト OS がシャットダウンする
ホストがメンテナンス モードになると、すべてのサービス アプライアンスが正常にシャットダウンされずに、パワーオフされます。これによりサードパーティ製のアプライアンスでエラーが発生する場合があります。

回避策： なし。

- **問題 1112628:** サービス デプロイ ビューを使用してデプロイしたサービス アプライアンスをパワーオンできない

回避策： 続行する前に、次を確認してください。

- 仮想マシンのデプロイが完了している。
- vCenter Server タスク ペインに、仮想マシンのクローン作成や再設定などの進行中のタスクが表示されない。
- 仮想マシンの vCenter Server のイベント ペインで、デプロイの開始後に次のイベントが表示される。

エージェント仮想マシン <仮想マシン名> がプロビジョニングされました。
エージェントを使用可能とマークして、エージェント ワークフローを進めます。

このような場合は、サービス仮想マシンを削除します。サービス デプロイ ユーザー インターフェイスで、デプロイが [失敗] と表示されます。赤いアイコンをクリックすると、ホストで利用できないエージェント仮想マシンに関するアラームが表示されます。アラームを解決すると、仮想マシンは再デプロイされ、パワーオン状態になります。

- **問題 1413125:** アップグレード後に SSO を再設定できない

NSX Manager 用に設定された SSO サーバが vCenter Server 上のネイティブなものである場合、vCenter Server をバージョン 6.0 へアップグレードし、NSX Manager をバージョン 6.x へアップグレードした後は、NSX Manager で SSO を再設定できません。

回避策： なし。

- **問題 1263858:** SSL VPN がアップグレード通知をリモート クライアントに送信しない

SSL VPN ゲートウェイはアップグレード通知をユーザーに送信しません。管理者は、SSL VPN ゲートウェイ (サーバ) が更新されたことと、リモート ユーザーが自分のクライアントを更新しなければならないことを、リモート ユーザーに手動で通知する必要があります。

回避策： ユーザーは旧バージョンのクライアントをアンインストールして、最新バージョンを手動でインストールする必要があります。

- **問題 1462319:** 「esxcli software vib list | grep esx」 コマンドの出力に、esx-dvfilter-switch-security VIB は今後表示されない

NSX 6.2 以降では、esx-dvfilter-switch-security モジュールが、esx-vxlan VIB の中に組み込まれています。6.2 でインストールされる NSX VIB は、esx-vsip と esx-vxlan のみです。NSX を 6.2 にアップグレードする間に、古い esx-dvfilter-switch-security VIB は ESXi ホストから削除されます。NSX 6.2.3 以降では、esx-vsip および esx-vxlan の NSX VIB とともに、3 つめの VIB として esx-vdpi が提供されます。インストールに成功すると 3 つすべての VIB が表示されます。

回避策： なし。

- **問題 1481083**：アップグレード後、明示的フェイルオーバーのチーミングを設定した分散論理ルーターがパケットを正しく転送できないことがある

ホストで ESXi 5.5 が実行されている場合、明示的なフェイルオーバーである NSX 6.2 のチーミング ポリシーは、分散論理ルーター上での複数のアクティブ アップリンクをサポートしません。

回避策：アクティブ アップリンクを 1 つのみにして、その他のアップリンクがスタンバイ モードになるように明示的フェイルオーバーのチーミング ポリシーを変更します。

- **問題 1411275**：NSX for vSphere 6.2 でのバックアップとリストア後、vSphere Web Client で [Networking and Security] タブが表示されない

NSX for vSphere 6.2 にアップグレードした後にバックアップとリストアの操作を実行すると、vSphere Web Client で [Networking and Security] タブが表示されません。

回避策：NSX Manager バックアップがリストアされると、NSX Manager の仮想アプライアンス管理ポータルからログアウトされます。数分間待機してから、vSphere Web Client にログインしてください。

- **問題 1764460**：ホストの準備の完了後、クラスタのすべてのメンバーが [準備完了] 状態と表示されるが、クラスタ レベルが [無効] と誤って表示される

ホストの準備が完了すると、クラスタのすべてのメンバーの状態が [準備完了] と正しく表示されますが、クラスタ レベルは [無効] と表示されます。その理由として、ホストの再起動が必要だと表示されますが、ホストはすでに再起動されています。これは、vSphere 5.5 と 6.0 で断続的に発生する可能性があります。この問題は vSphere 6.5 で修正されています。

回避策：vCenter Server ESX Agent Manager MOB (https://VC_IP/eam/mob/) で、ホスト クラスタに関連付けられているエージェントにアクセスできます。いずれかのエージェントをクリックして [設定] をクリックすると、クラスタの詳細を確認できます。影響を受けるクラスタで [すべてを解決] をクリックします。

- **問題 1979457**：アップグレードまたは後方互換性モードで、ゲスト イントロスペクション サービス仮想マシンが削除されると、ゲスト イントロスペクション クラスタがアップグレードされるまで、ゲスト イントロスペクション経由で Identity Firewall が機能しない

Identity Firewall が機能せず、Identity Firewall に関連するログが表示されないクラスタがアップグレードされない限り、Identity Firewall による保護が中断したままになる

回避策：すべてのホストで最新バージョンのゲスト イントロスペクション サービス仮想マシンが実行されるように、クラスタをアップグレードします。

または

Identity Firewall が機能するようにログ スクレーパを有効にします。

NSX Manager に関する既知の問題

- **問題 1892999**：ユニバーサル セキュリティ タグに関連する仮想マシンがない場合でも、独自の選択基準を変更できない

ユニバーサル セキュリティ タグが設定されている仮想マシンを削除しても、仮想マシンを表す内部オブジェクトにはユニバーサル セキュリティ タグが残ります。このため、ユニバーサル選択基準の変更に失敗し、ユニバーサル セキュリティ エラーが仮想マシンに関連付けられていることを通知するエラーが返されます。

回避策：すべてのユニバーサル セキュリティ タグを削除して、ユニバーサル選択基準を変更します。

- **問題 1801325**：NSX Manager で CPU またはディスクの使用率が高くなると、「重大」レベルのシステム イベントとログが生成される

NSX Manager で、ディスクの使用率が高い、ジョブ データのチャーン率が高い、またはジョブ キュー サイズが大きいと、次の問題が 1 つ以上発生することがあります。

- vSphere Web Client で「重大」レベルのシステム イベントが発生する
- /common パーティションで NSX Manager のディスク使用率が高くなる
- CPU の使用率が長期間または定期的に高くなる
- NSX Manager のパフォーマンスが低下する

回避策：VMware サポートにお問い合わせください。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2147907](#) を参照してください。

- **問題 1806368**: 障害が発生し、フェールオーバー後に再びプライマリに昇格した NSX Manager からコントローラを再利用すると、分散論理ルーターの設定が一部のホストにプッシュされない
Cross-vCenter NSX 環境では、プライマリ NSX Manager に障害が発生すると、セカンダリ NSX Manager がプライマリに昇格し、新しいプライマリ NSX Manager で使用するための新しいコントローラ クラスタがデプロイされます。障害の起きたプライマリ NSX Manager がオンラインに戻ると、現在のプライマリ NSX Manager がセカンダリに降格し、元のプライマリ NSX Manager がリストアされます。このとき、リストアされたプライマリ NSX Manager で、フェールオーバー前にデプロイされていたコントローラを使用すると、一部のホストに分散論理ルーターの設定がプッシュされません。リストアされた NSX Manager 用に新しいコントローラ クラスタを作成する場合、この問題は発生しません。

回避策：リストアしたプライマリ NSX Manager に新しいコントローラ クラスタをデプロイします。

- **問題 1831131**: LocalOS ユーザーで認証を行うと、NSX Manager から SSO への接続が失敗する
LocalOS ユーザーで認証を行うと、次のエラーが発生し、NSX Manager から SSO への接続に失敗します。
「NSX Manager との通信を確立できませんでした。管理者に連絡してください。」

回避策：エンタープライズ管理者ロールを `nsxmanager@localos` と `nsxmanager@domain` に追加してください。

- **問題 1800820**：古いユニバーサル分散論理ルーター (UDLR) インターフェイスがシステムから削除されている場合、セカンダリ NSX Manager で UDLR インターフェイスの更新に失敗する
プライマリ NSX Manager でユニバーサル同期サービス (レプリケータ) が動作しなくなった場合、プライマリ NSX Manager でユニバーサル分散論理ルーター (UDLR) とユニバーサル論理スイッチ (ULS) のインターフェイスを削除して、新しいインターフェイスを作成した後、セカンダリ NSX Manager にレプリケートする必要があります。この場合、セカンダリ NSX Manager では UDLR インターフェイスが更新されません。これは、レプリケーション中にセカンダリ NSX Manager で新しい ULS が作成されますが、UDLR は新しい ULS と接続されないためです。

回避策：新しいバックアップとして、ULS が作成されたプライマリ NSX Manager でレプリケータが実行されていることを確認して、UDLR インターフェイス (LIF) を削除し、同じ ULS がバックアップする UDLR インターフェイス (LIF) を再作成します。

- **問題 1772911**：NSX Manager の処理がディスク容量の消費とともに低速になり、タスクとジョブのテーブル サイズが増加して CPU の使用率がほぼ 100% になる
以下の状況が発生します。

- NSX Manager の CPU 使用率が 100% になる、または定期的に 100% に到達し、追加のリソースを NSX Manager アプライアンスにリソースを追加しても状況が変わらない。
- NSX Manager コマンド ライン インターフェイス (CLI) で `show process monitor` コマンドを実行すると、最も高い CPU サイクルを消費している Java プロセスが表示される。
- NSX Manager CLI 上で `show filesystems` コマンドを実行すると、/common ディレクトリの CPU 使用率が「> 90%」のように非常に高い数値を示す。
- 一部の設定変更のタイムアウト (50 分以上かかる場合がある) が発生し変更が有効にならない。

詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2147907](#) を参照してください。

回避策：この問題の解決策については、VMware サポートにお問い合わせください。

- **問題 1785142**：プライマリとセカンダリの NSX Manager 間で通信がブロックされると、プライマリ NSX Manager に「同期の問題」と表示されるまでに時間がかかる

プライマリおよびセカンダリ NSX Manager 間の通信がブロックされると、プライマリ NSX Manager に「同期の問題」と表示されるまで時間がかかります。

回避策：通信が再度接続されるまで約 20 分待機してください。

- **問題 1786066**：NSX の Cross-vCenter インストールでは、セカンダリ NSX Manager を切断すると、その NSX Manager はセカンダリとして再接続できない可能性がある

NSX の Cross-vCenter インストールで、セカンダリ NSX Manager を切断すると、後でその NSX Manager をセカンダリ NSX Manager として再追加することができない場合があります。NSX Manager をセカンダリとして再接続しようとする、NSX Manager は vSphere Web Client の [管理] タブに「Secondary」としてリストされますが、プライマリへの接続は確立されません。

回避策：

1. プライマリ NSX Manager からセカンダリ NSX Manager を切断します。
2. プライマリ NSX Manager にセカンダリ NSX Manager を再度追加します。

- **問題 1715354**：REST API の可用性の遅延

FIPS モードを切り替えると、NSX Manager が再起動した後に NSX Manager API が起動して実行状態になるまでしばらく時間がかかります。API がハングしているように見えますが、これは、コントローラが NSX Manager との接続を再度確立するまでに時間がかかるためです。NSX API サーバが起動して実行状態になるまで待機し、すべてのコントローラが接続された状態になったことを確認してから操作を実行することを推奨します。

- **問題 1441874**：リンク モードで vCenter Server を使用している環境で単一の NSX Manager をアップグレードするとエラー メッセージが表示される

複数の NSX Manager を含む複数の VMware vCenter Server がある環境で、[vSphere Web Client] > [Networking and Security] > [インストール手順] > [ホストの準備] の順にクリックし、1 台以上の NSX Manager を選択すると、次のエラーが表示されます。

「NSX Manager との通信を確立できませんでした。管理者に連絡してください。」

回避策：詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2127061](#) を参照してください。

- **問題 1696750**：PUT API を介して NSX Manager に割り当てた IPv6 アドレスを有効にするには、再起動が必要となる

NSX Manager のネットワーク設定を `https://{NSX Manager IP address}/api/1.0/appliance-management/system/network` を介して変更する場合、変更を有効にするにはシステムの再起動が必要です。再起動するまでは変更前の設定が表示されます。

回避策：なし。

- **問題 1529178**：共通名を含まないサーバ証明書をアップロードすると、「内部サーバエラー」のメッセージが返される

共通名を含まないサーバ証明書をアップロードすると、「内部サーバエラー」のメッセージが表示されません。

回避策：サブジェクト代替名と共通名の両方、または少なくとも共通名を含むサーバ証明書を使用します。

- **問題 1655388**：日本語、中国語、およびドイツ語版 Windows 10 OS 上で IE11/Edge ブラウザを使用すると、NSX Manager 6.2.3 のユーザー インターフェイスがローカル言語ではなく英語で表示される

日本語、中国語、およびドイツ語版 Windows 10 OS 上で IE11/Edge ブラウザを使用して NSX Manager 6.2.3 を起動すると、英語で表示されます。

回避策：

1. Microsoft のレジストリ エディター (regedit.exe) を起動して、[コンピューター] > [HKEY_CURRENT_USER] > [SOFTWARE] > [Microsoft] > [Internet Explorer] > [International] の順に移動します。

2. *AcceptLanguage* ファイルの値をネイティブ言語に変更します。たとえば、言語をドイツ語で表示する場合、値を DE に変更して最初に表示されるようにします。
3. ブラウザを再起動し、NSX Manager にもう一度ログインします。これで、言語が正しく表示されるようになります。

- **問題 1435996** : NSX Manager から CSV 形式でエクスポートしたログ ファイルのタイムスタンプが一般的な日時ではなくエポック時間である
vSphere Web Client を使用して NSX Manager から CSV 形式でログファイルをエクスポートした場合、ログ ファイルのタイムスタンプが、タイムゾーンに基づく適切な時間ではなく、ミリ秒単位のエポック時間で記述されます。
回避策 : なし。
- **問題 1644297** : プライマリ NSX で分散ファイアウォール (DFW) セクションの追加/削除操作を実行すると、セカンダリ NSX に 2 つの分散ファイアウォール設定が保存される
Cross-vCenter のセットアップで、ユニバーサルまたはローカルの分散ファイアウォール (DFW) セクションがプライマリ NSX Manager に追加されると、2 つの分散ファイアウォール設定がセカンダリ NSX Manager に保存されます。この問題によって影響を受ける機能はありませんが、想定より早く保存可能な設定数の上限に達してしまい、重要な設定が上書きされてしまう可能性があります。
回避策 : なし。
- **問題 1477138** : ホスト名が 64 文字を超える場合、NSX 管理サービスが起動しない
OpenSSL ライブラリで証明書を生成するには、ホスト名を 64 文字以下にする必要があります。
- **問題 1437664** : Web Client の画面で NSX Manager のリストが表示されるのが遅い
複数の NSX Manager を使用している vSphere 6.0 環境において、ログイン ユーザーが大規模な Active Directory グループで認証されている場合、vSphere Web Client の NSX Manager リストの表示に最大 2 分ほどかかる可能性があります。NSX Manager のリストを表示しようとする、データ サービスのタイムアウト エラーが表示されることがあります。回避策はありません。リストがロードされるまで待つか、再ログインして NSX Manager リストを表示する必要があります。
- **問題 1534606** : [ホストの準備] 画面をロードできない
リンク モードで vCenter Server を実行する際、各 vCenter Server は、同じバージョンの NSX Manager に接続する必要があります。NSX のバージョンが異なる場合、vSphere Web Client は、上位バージョンの NSX Manager としか通信できません。「NSX Manager との通信を確立できませんでした。管理者に問い合わせてください」という内容のエラーが、[ホストの準備] タブに表示されます。
回避策 : すべての NSX Manager を同じバージョンにアップグレードします。
- **問題 : 1027066** : NSX Manager の vMotion 時に「仮想イーサネット カード ネットワーク アダプタ 1 はサポートされていません」というエラー メッセージが表示されることがある
このエラーは無視してかまいません。vMotion 後、ネットワークは適切に動作します。
- **問題 1460766** : NSX コマンドライン インターフェイスを使用してパスワードを変更した後、NSX Manager ユーザー インターフェイスを自動的にログアウトしない
NSX Manager へのログイン中に、コマンドライン インターフェイスを使用してパスワードを変更しても、旧パスワードを使用して NSX Manager ユーザー インターフェイスにログインしたままの状態が維持されることがあります。通常、セッションが非アクティブ状態のままタイムアウトになると、NSX Manager はユーザーを自動的にログアウトします。
回避策 : NSX Manager ユーザー インターフェイスからログアウトし、新しいパスワードを使用して再度ログインします。
- **問題 1966681** : 重複する NSX Manager IP アドレスにより、正確な情報がレポートされない
ログ ファイルに重複する NSX Manager IP アドレスが大量に記録され、ネットワーク内の重複 IP アドレスの情報が正しくレポートされません。

• **問題 1467382: ネットワーク ホスト名を編集できない**

NSX Manager 仮想アプライアンスにログインし、[Manage Appliance Settings] に移動した後、[SETTING] > [Network] の順にクリックしてネットワーク ホスト名を編集すると、無効なドメイン名リスト エラーが発生することがあります。これは、[Search Domains] フィールドで指定したドメイン名が、コンマではなく空白文字で区切られている場合に発生するエラーです。NSX Manager ではコンマ区切りのドメイン名のみが使用できます。

回避策:

1. NSX Manager 仮想アプライアンスにログインします。
2. [Appliance Management] で、[Manage Appliance Settings] をクリックします。
3. [SETTINGS] パネルで、[Network] をクリックします。
4. [DNS Servers] の横にある [Edit] をクリックします。
5. [ドメインの検索] フィールドで空白文字をすべてコンマに置き換えます。
6. [OK] をクリックして変更内容を保存します。

• **問題 1486193/1436953: バックアップから NSX Manager を正しくリストアしても、False システム イベントが生成される**

NSX Manager をバックアップから正常にリストアした後、vSphere Web Client で [Networking and Security] > [NSX Managers] > [監視] > [システム イベント] の順にクリックすると、次のシステム イベントが表示されます。

- バックアップからの NSX Manager のリストアに失敗しました(重要度 = 重大)。
- NSX Manager のリストアが正常に完了しました(重要度 = 情報)。

回避策: 最終的なシステム イベント メッセージに問題がなければ、生成されたイベント メッセージは無視してもかまいません。

• **問題 1783528: 毎週金曜日の夜と土曜日の朝に NSX Manager の CPU の使用率が急増する**

NSX は、完全同期を行うために、毎週金曜日の夜に LDAP をポーリングします。NSX では、特定の Active Directory 組織単位またはコンテナを設定するオプションがないため、指定されたドメインに関連するすべてのオブジェクトを取得します。

回避策: NSX Manager の vCPU を 4 個から 6 個に増やします。

NSX Controller に関する既知の問題

• **問題 1856465: NSX Cross-vCenter Server 環境のサイトの 1 つで ESXi ホストが停止すると、そのサイトで CDO モードが有効にならない**

サイトで ESXi ホストが停止しているときに、CDO モードを有効または無効にしても、そのサイトでは変更されません。

セカンダリ サイトのホストが停止した場合、プライマリ サイトでは CDO モードの変更に成功します。ただし、セカンダリ サイトでは CDO モードの変更に失敗します。これにより、動作が不安定になる場合があります。

回避策: この問題は、NSX 6.3.0 以降に影響します。

- CDO 操作を実行する前に、すべての ESXi ホストが稼動していることを確認してください。
- 整合性のない状態からリカバリするには、vCenter Server のインベントリからホストを削除し、再度追加してください。

論理ネットワークと NSX Edge に関する既知の問題

• **問題 2071666: L2 VPN が設定された Edge を vMotion で移行後、L2 VPN トンネルのストレッチ**

ネットワーク経由でアクセス可能なリモート仮想マシンへのトラフィックが中断する

L2 VPN が設定された Edge（管理対象の Edge とスタンドアローンの Edge の両方）を vMotion で移行した後、リモート仮想マシンからのトラフィックが生成された場合、物理ネットワークの MAC テーブルでリモート仮想マシン MAC のエントリが期限切れになり、手動で消去または再学習するまで、L2 VPN トンネルのストレッチ ネットワーク経由でアクセス可能なリモート仮想マシンへのトラフィックが中断します。

回避策：vMotion が制御不能な状態にならないように、L2 VPN の Edge で DRS を無効にします。DRS を無効にせず vMotion が発生した場合は、vMotion で移行後に MAC テーブルからリモート仮想マシンの MAC のエントリを消去し、リモート仮想マシンからトラフィックを生成します。

- **問題 1904612**：レイヤー 2 VPN トンネルで、クライアントがパワーオフの状態でも、L2VPN サーバが「up」と表示される
2 つの NSX Edge 間で L2 VPN を作成する場合、クライアントの NSX Edge をパワーオフしますが、サーバ側の NSX Edge では、VPN トンネルが稼動中と表示されます。

回避策：なし。

- **問題 1242207**：実行時にルーター ID を変更しても OSPF トポロジに反映されない
OSPF を無効にせずにルーター ID を変更すると、新しい外部 LSA (Link-State Advertisements) が新しいルーター ID で再生成されないため、OSPF 外部ルートが消失します。

OSPF を無効にしてからルーター ID を変更し、OSPF を再度有効にしてください。

- **問題 1894277**：ローカルまたはピア サブネットが変更されると、IPSec サイト設定の PSK が維持されない
マスクされた PSK がデータベースに保存されるため、パスワードが一致せず、ピア間のトンネルが有効になりません。

回避策：有効なパスワードを使用して IPSec を再設定します。

- **問題 1492497**：NSX Edge DHCP トラフィックをフィルタリングできない
NSX Edge の DHCP サーバが TCP/IP スタックをバイパスする Raw ソケットを使用するため、NSX Edge で DHCP トラフィックにファイアウォール フィルタを適用できません。

回避策：なし。

- **問題 1781438**：ESG または分散論理ルーターの NSX Edge アプライアンスで、BGP パス属性 MULTI_EXIT_DISC を複数回受信すると、ルーティング サービスがエラー メッセージを送信しない
BGP パス属性 MULTI_EXIT_DISC を複数回受信しても、Edge ルーターまたは分散論理ルーターがエラー メッセージを送信しません。RFC 4271 [Sec 5] により、特定の UPDATE メッセージのパス属性フィールドに同じ属性（同じタイプの属性）を複数回使用することはできません。

回避策：なし。

- **問題 1786515**：「Security Administrator」権限を持つユーザーが、vSphere Web Client ユーザー インターフェイスでロード バランサの設定を編集することができない
特定の NSX Edge の「Security Administrator」権限を持つユーザーが、vSphere Web Client のユーザー インターフェイスを使用して、この Edge のロード バランサのグローバル構成を編集することができません。次のようなエラー メッセージが表示されます。「ユーザーはオブジェクト Global および機能 si.service にアクセスする権限がありません。このユーザーのオブジェクト アクセス スコープおよび機能の権限を確認してください。」

回避策：なし。

- **問題 1849042/1849043**：NSX Edge アプライアンスでパスワードの有効期限が設定されている場合、管理者アカウントがロックされる
NSX Edge アプライアンスで管理者ユーザーのパスワードに有効期間が設定されている場合、パスワードが

期限切れになってから 7 日間は、ユーザーがアプライアンスにログインするときにパスワードの変更が要求されます。パスワードを変更しないと、アカウントがロックされます。また、CLI のプロンプトを使用してログイン時にパスワードを変更する場合、作成したパスワードの強度は、ユーザー インターフェイスや REST に適用されているパスワードの強度ポリシーを満たさない場合があります。

回避策：この問題を回避するには、パスワードが期限切れになる前に、ユーザー インターフェイスまたは REST API を使用して管理者パスワードを変更します。アカウントがロックされた場合は、ユーザー インターフェイスまたは REST API で新しいパスワードを設定してアカウントのロックを解除します。

- **問題 1711013**：スタンバイ仮想マシンの再起動後、アクティブ/スタンバイ NSX Edge 間の FIB の同期に約 15 分かかる

スタンバイ NSX Edge がパワーオフになっている場合、アクティブ モードとスタンバイ モード間の TCP セッションが閉じられません。アクティブ Edge は、キープアライブ (KA) 障害 (15 分) 後に、スタンバイ Edge がダウンしていると判断します。15 分後に、スタンバイ Edge との新しいソケット接続が確立されると、FIB がアクティブ/スタンバイ Edge の間で同期されます。

回避策：なし。

- **問題 1733282**：NSX Edge がデバイスのスタティック ルートをサポートしない
NSX Edge は、ネクスト ホップのアドレスが NULL に設定されたスタティック ルートをサポートしていません。

回避策：なし。

- **問題 1860583**：DNS にアクセスできない場合、FQDN を使用してリモートの sysloger を設定すると問題が発生する

NSX Edge でリモートの sysloger が FQDN を使用して設定されていて、DNS にアクセスできない場合、ルーティング機能に影響する可能性があります。この問題は必ず発生するとは限りません。

回避策：FQDN ではなく IP アドレスを使用することをお勧めします。

- **問題 1850773**：ロード バランサの設定で複数のポートが使用されていると、NSX Edge の NAT の設定が無効であるとレポートされる

この問題は、ロード バランサ仮想サーバに 2 つ以上のポートを設定するたびに発生します。この設定を修正しない限り、影響を受ける NSX Edge では NAT を管理できなくなります。

回避策：回避策および詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2149942](#) を参照してください。

- **問題 1764258**：サブインターフェイスが設定された NSX Edge で高可用性によるフェイルオーバーまたは強制同期が実行されると、トラフィックが最大 8 分間ブラックホール状態になる
サブインターフェイスを介して、高可用性によるフェイルオーバーをトリガするか、強制同期を開始した場合、最大 8 分間ブラックホール状態が発生し、トラフィックが失われます。

回避策：高可用性ではサブインターフェイスを使用しないでください。

- **問題 1767135**：ロード バランサの証明書とアプリケーション プロファイルにアクセスしようとするとエラーが発生する

セキュリティ管理者の権限と Edge スコープが設定されているユーザーは、ロード バランサの証明書とアプリケーション プロファイルにアクセスできません。vSphere Web Client にエラー メッセージが表示されます。

回避策：なし。

- **問題 1792548**：NSX Controller で次のメッセージが表示され、スタックする場合がある：Waiting to join cluster

NSX Controller で次のメッセージが表示され、スタックする場合がある：Waiting to join cluster (CLI コマン

ド: show control-cluster status)。この問題は、NSX Controller の起動中に NSX Controller の eth0 インターフェイスと breth0 インターフェイスに同じ IP アドレスが設定されることが原因で発生します。NSX Controller で次の CLI コマンドを使用すると、インターフェイスの IP アドレスを確認できません。show network interface

回避策 : VMware サポートにお問い合わせください。

- **問題 1747978** : NSX Edge 高可用性のフェイルオーバー後に、OSPF 隣接関係が MD5 認証で削除される

NSX for vSphere 6.2.4 環境で、NSX Edge が高可用性構成となっており、OSPF グレースフル リスタートが設定され、認証に MD5 が使用される場合、OSPF は正常に起動できません。隣接関係は、Dead タイマーが OSPF ネイバー ノード上で終了した後にのみ発生します。

回避策 : なし。

- **問題 1804116** : 分散論理ルーターが、NSX Manager との通信を失ったホスト上で不整合状態になる
分散分散論理ルーターがパワーオンの状態または NSX VIB のアップグレード/インストールの失敗またはホスト通信の問題が原因で、NSX Manager との通信を失ったホスト上に再デプロイされると、分散論理ルーターは不整合の状態になり、Force-Sync を使用した連続自動リカバリの操作に失敗します。

回避策 : ホストと NSX Manager 間の通信の問題を解決した後、NSX Edge を手動で再起動して、すべてのインターフェイスが起動するまで待機します。force-sync を使用した自動リカバリ プロセスにより、NSX Edge が再起動されるため、この回避策は分散論理ルーターには必要ですが NSX Edge Services Gateway (ESG) には必要ありません。

- **問題 1783065** : IPv4 および IPv6 アドレスが共存する場合、TCP と一緒に UDP ポートのロード バランサを設定することができない

UDP は ipv4-ipv4、ipv6-ipv6 (フロントエンド - バックエンド) のみをサポートします。NSX Manager では、IPv6 のリンク ローカル アドレスさえも読み取られ、グループ オブジェクトの IP アドレスとしてプッシュされてしまい、ロード バランサ設定で使用する IP プロトコルを選択することができないというバグがあります。

次はこの問題が発生するロード バランサ設定の例です。

ロード バランサ設定で、「vCloud_Connector」プールはグループ オブジェクト (vm-2681) でプール メンバーとして設定されています。このオブジェクトには IPv4 と IPv6 のアドレスが両方とも含まれているため、これはロード バランサの L4 エンジンでサポートされません。

```
{
    "algorithm" : {
        ...
    },
    "members" : [
        {
            ... ,
            ...
        }
    ],
    "applicationRules" : [],
    "name" : "vCloud_Connector",
    "transparent" : {
        "enable" : false
    }
}
```

```
    "value" : [  
        "fe80::250:56ff:feb0:d6c9",  
        "10.204.252.220"  
    ],  
    "id" : "vm-2681"  
}
```

回避策:

- オプション 1: プール メンバーのグループ オブジェクトの代わりに、プール メンバーの IP アドレスを入力します。
- オプション 2: 仮想マシンで IPv6 を使用しないようにします。

- **問題 1777792:** 「ANY」 として設定されたピア エンドポイントによって IPsec 接続が失敗する
NSX Edge の IPsec 設定がリモートのピア エンドポイントを「ANY」に設定すると、Edge は IPsec の「サーバ」 として動作し、リモート ピアが接続の開始するまで待機します。ただし、イニシエータが PSK+XAUTH を使用して認証の要求を送信すると、Edge には次のエラー メッセージ「initial Main Mode message received on XXX.XXX.XX.XX:500 but no connection has been authorized with policy=PSK+XAUTH」が表示され、IPsec を確立することができません。

回避策: ANY の代わりに、IPsec VPN 設定で特定のピア エンドポイント IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用します。

- **問題 1741158:** 未設定の新しい NSX Edge を作成して設定を適用すると、準備ができていない Edge サービスが有効になることがある
NSX API を使用して新しい未設定の NSX Edge を作成し、API 呼び出しによってその Edge の Edge サービスの 1 つを無効にした (たとえば dhcp-enabled を「false」に変更した) 場合、無効にした Edge サービスの設定を変更すると、そのサービスがただちに有効になります。

回避策: 無効のままにしておきたい Edge サービスの設定を変更したら、すぐに PUT API を使用してそのサービスの有効フラグを「false」に設定します。

- **問題 1758500:** 複数のネクスト ホップがあるスタティック ルートは、設定されているネクスト ホップの 1 つ以上が Edge の vNIC の IP アドレスである場合、NSX Edge のルーティング テーブルとフォワーディング テーブルに含まれない
ECMP が有効で、ネクスト ホップのアドレスが複数ある場合、少なくとも 1 つのネクスト ホップ IP アドレスが有効であれば、NSX は Edge の vNIC の IP アドレスをネクスト ホップとして設定することを許可してしまいます。このように設定してもエラーや警告は発生しませんが、そのネットワークのルートは Edge のルーティング テーブルとフォワーディング テーブルから削除されます。

回避策: ECMP を使用する場合、Edge 自身の vNIC の IP アドレスをスタティック ルートのネクスト ホップとして設定しないでください。

- **問題 1716464:** NSX ロード バランサがセキュリティ タグで新規にタグ付けされた仮想マシンにルーティングしない
2 台の仮想マシンを指定タグで展開し、ロード バランサがそのタグにルーティングするように設定すると、ロード バランサはこれらの 2 台の仮想マシンに正常にルーティングします。しかし、そのタグで 3 台目の仮想マシンを展開すると、ロード バランサは最初の 2 台の仮想マシンにのみルーティングします。

回避策: ロード バランサ プールで [保存] をクリックします。これにより仮想マシンが再スキャンされ、新規にタグ付けされた仮想マシンへのルーティングを開始します。

- **問題 1461421:** NSX Edge の「show ip bgp neighbor」コマンドの出力で、以前接続を確立したカウントが維持される

「show ip bgp neighbor」コマンドは、任意のピアに対して BGP ステート マシンが Established に遷移した回数を表示します。MD5 認証で使用されるパスワードを変更すると、ピア接続が破棄されて再作成されるため、カウンタがクリアされます。この問題は、Edge 分散論理ルーター (DLR) では発生しません。

回避策： カウンタをクリアするには、「clear ip bgp neighbor」コマンドを実行します。

- **問題 1656713**： HA フェイルオーバー後 NSX Edge に IPsec セキュリティ ポリシー (SP) が存在せず、トラフィックがトンネルを通過できない
IPsec トンネルを通過するトラフィックに対する、スタンバイ から アクティブへの切り替えが動作しません。

回避策： NSX Edge の切り替え後、IPsec を一度無効にしてから有効にします。

- **問題 1354824**： Edge 仮想マシンが破損したり、電源障害などの理由によりアクセスできなくなると、NSX Manager からの健全性チェックが失敗した場合にシステム イベントが表示される [システム イベント] タブには、「Edge にアクセスできない」ことを示すイベントが通知されます。NSX Edge のリストでは、「デプロイ済み」のステータスが引き続き表示される場合があります。

回避策： 次の API を使用して、NSX Edge の詳細なステータス情報を取得します。

```
GET https://NSX-Manager-IP-Address/api/4.0/edges/edgeId/status?detailedStatus=true
```

- **問題 1647657**： 分散論理ルーターを有効にしている ESXi ホストで show コマンドを使用すると、分散論理ルーター インスタンスごとにルートが 2,000 個までしか表示されない

ESXi ホストで分散論理ルーターを有効にしている場合に show コマンドを使用すると、分散論理ルーター インスタンスごとに表示されるルートの最大数が 2,000 個となり、この数を超えるルートを実行していても表示されません。これは表示の問題であり、データ パスはすべてのルートで正しく動作します。

回避策： なし。

- **問題 1634215**： OSPF CLI コマンド出力に、ルーティングが無効になっているかどうかを示されない

OSPF が無効になっている場合でも、ルーティングの CLI コマンドの出力に「OSPF が無効」であることを示すメッセージが表示されません。出力は空白です。

回避策： `show ip ospf` コマンドを使用すると、正しいステータスが表示されます。

- **問題 1647739**： vMotion の操作後に Edge 仮想マシンを再デプロイすると、Edge または分散論理ルーター仮想マシンの配置場所が元のクラスタに戻る

回避策： Edge 仮想マシンを異なるリソース プールまたはクラスタに配置するには、NSX Manager ユーザー インターフェイスを使用して希望の場所を構成します。

- **問題 1463856**： NSX Edge ファイアウォールが有効になっていると、既存の TCP 接続がブロックされる

Edge のステートフル ファイアウォールで、最初の 3 ウェイ ハンドシェイクが認識されないために、TCP 接続がブロックされます。

回避策：このような既存のフローを処理するには、次の操作を実行します。NSX REST API を使用して、ファイアウォールのグローバル構成で [tcpPickOngoingConnections] フラグを有効にします。これにより、ファイアウォールが Strict モードから Lenient モードに切り替わります。次に、ファイアウォールを有効にします。ファイアウォールを有効にしてから数分後に、既存の接続が検出されたら、[tcpPickOngoingConnections] フラグを false に戻して、ファイアウォールを Strict モードに戻します。この設定は維持されます。

```
PUT /api/4.0/edges/{edgeId}/firewall/config/global
```

```
<globalConfig>
```

```
<tcpPickOngoingConnections>true</tcpPickOngoingConnections>
</globalConfig>
```

- **問題 1374523** : esxcli を使用した VXLAN コマンドを利用するには、VXLAN VIB のインストール後に、ESXi を再起動するか、*services.sh restart* を実行する必要がある
VXLAN VIB のインストール後、esxcli を使用した VXLAN コマンドを利用するには、ESXi を再起動するか *services.sh restart* コマンドを実行する必要があります。
回避策 : esxcli の代わりに localcli を使用します。
- **問題 1525003** : 誤ったパスフレーズを使用して NSX Manager のバックアップをリストアしようとすると、クリティカルなルート フォルダにアクセスできないため、警告なしで操作に失敗する
回避策 : なし。
- **問題 1483426**: IPsec および L2 VPN サービスが有効にでない場合でも、サービスのステータスが停止中と表示される
ユーザー インターフェイス の [設定] タブで、L2 サービスのステータスが停止中と表示されているにもかかわらず、API では稼動中と表示されます。ユーザー インターフェイス ページを更新しない限り、[設定] タブの L2 VPN および IPsec サービスは、常に停止中と表示されます。
回避策 : 画面を更新します。
- **問題 1637639** : Windows 8 SSL VPN PHAT クライアントを使用する場合、IP アドレス プールから仮想 IP アドレスが割り当てられない
Windows 8 では、Edge Services Gateway が新しい IP アドレスが割り当てられる場合、または異なる IP アドレス範囲を使用するように IP アドレス プールを変更した場合、IP アドレス プールから仮想 IP アドレスが割り当てられません。
回避策 : この問題は Windows 8 でのみ発生します。別の Windows OS を使用することで、この問題の発生を回避できます。
- **問題 1628220** : 受信側で分散ファイアウォールまたは NetX の監視が表示されない
宛先 vNIC に関連付けられているスイッチ ポートが変更された場合、レシーバ側でトレースフローが分散ファイアウォール (DFW) および NetX の監視を表示しないことがあります。この問題は、vSphere 5.5 のリリースでは修正されていません。vSphere 6.0 以降では、このような問題は発生しません。
回避策 : vNIC を無効にしないでください。仮想マシンを再起動してください。
- **問題 1446327** : NSX Edge 経由で TCP ベースのアプリケーションを接続すると、タイムアウトになる場合がある
TCP で確立された接続における非アクティブ状態のタイムアウトは、デフォルトで 3600 秒です。NSX Edge は、非アクティブ タイムアウトを超過したアイドル状態の接続を削除し、接続をドロップします。
回避策 :
 1. 非アクティブな時間が比較的長いアプリケーションの場合は、ホストの TCP キープアライブを有効にし、keep_alive_interval を 3600 秒未満に設定します。
 2. 次の NSX REST API を使用して、Edge の TCP 非アクティブ タイムアウトを 2 時間以上に増やします。たとえば、非アクティブ タイムアウトを 9000 秒に増やします。NSX API URL :
/api/4.0/edges/{edgeId}/systemcontrol/config PUT Method <systemControl>
<property>sysctl.net.netfilter.nf_conntrack_tcp_timeout_established=9000</property> </systemControl>
- **問題 1089238**: 複数の分散論理ルーター Edge アップリンク上で OSPF を設定できない
現在、複数の分散論理ルーター Edge のアップリンク (合計 8 つ) に OSPF を設定することはできません。この制限は、分散論理ルーターの複数のインスタンスが 1 つの転送アドレスを共有するために発生します。
回避策 : これは現在のシステムの制限であり、回避策はありません。
- **問題 1499978**: Edge の Syslog メッセージがリモートの Syslog サーバに到達しない

デプロイの直後は、Edge の Syslog サーバは構成済みのリモート Syslog サーバのホスト名を解決できません。

回避策： リモートの Syslog サーバを IP アドレスを使用して設定するか、ユーザー インターフェイスから Edge の強制同期を行います。

- **問題 1489829: REST Edge API で分散論理ルーターの DNS クライアントの設定 変更しても完全に適用されない**

回避策： REST API を使用して DNS フォワーダ (リゾルバ) を設定する場合は、次の手順を実行します。

1. DNS フォワーダの設定と一致するように、DNS クライアントの XML サーバ設定を指定します。
2. DNS フォワーダを有効にして、フォワーダ設定が、XML 設定で指定された DNS クライアント サーバ設定と同じであることを確認します。

- **問題 1243112 : ECMP を有効にした場合、スタティック ルート内の無効なネクスト ホップに関する検証メッセージやエラー メッセージが表示されない**

ECMP を有効にしてスタティック ルートの追加を試みると、ルーティング テーブルにデフォルト ルートの指定がない場合に、スタティック ルートの設定に到達不能のネクスト ホップが存在していても、エラー メッセージが表示されず、スタティック ルートも配置されません。

回避策： なし。

- **問題 1281425: 論理スイッチに接続されている 1 つのサブ インターフェイスを持つ NSX Edge 仮想マシンが vSphere Web Client ユーザー インターフェイスで削除されると、同じポートに接続する新しい仮想マシンのデータ パスが機能しないことがある**

NSX Manager からではなく、vSphere Web Client を使用して Edge 仮想マシンを削除すると、不透明チャネル上の dvPort に設定されている VXLAN トランクがリセットされません。これは、トランクの設定が NSX Manager で管理されているためです。

回避策： 次の手順を実行して、VXLAN のトランク設定を手動で削除します。

1. ブラウザ ウィンドウで次のように入力して、vCenter Server 管理対象オブジェクト ブラウザに移動します：

```
https://<vc-ip>/mob?vmodl=1
```

2. [Content] をクリックします。
3. 次の手順を実行して、dvsUuid 値を取得します。
 - a. [rootFolder] リンクをクリックします (例： group-d1(Datacenters)) 。
 - b. データセンター名リンクをクリックします (例： datacenter-1) 。
 - c. [networkFolder] リンクをクリックします (例： group-n6) 。
 - d. 分散仮想スイッチ名のリンクをクリックします (例： dvs-1) 。
 - e. uuid の値をコピーします。
4. [DVSManger] > [updateOpaqueDataEx] の順にクリックします。
5. [selectionSet] に次の XML を追加します。

```
<selectionSet xsi:type="DVPortSelection">
<dvsUuid>value</dvsUuid>
<portKey>value</portKey> <!--port number of the DVPG where trunk vnic got c
onnected-->
</selectionSet>
```

6. [opaqueDataSpec] に次の XML を追加します。

```
<opaqueDataSpec>
<operation>remove</operation>
<opaqueData>
<key>com.vmware.net.vxlan.trunkcfg</key>
<opaqueData></opaqueData>
</opaqueData>
```

</opaqueDataSpec>

7. isRuntime を [false] に設定します。
 8. [Invoke Method] をクリックします。
 9. 削除済みの Edge 仮想マシンに設定されたトランク ポートごとに手順 5~8 を繰り返します。
- **問題 1637939：ハードウェア ゲートウェイのデプロイ中に MD5 証明書がサポートされない**
論理 L2 VLAN から VXLAN へのブリッジ用 VTEP としてハードウェア ゲートウェイ スイッチをデプロイしている間、NSX Controller と OVSDB スイッチ間の OVSDB コネクション用に、物理スイッチは最低でも SHA1 SSL 証明書をサポートします。

回避策：なし。

- **問題 1637943：ハードウェア ゲートウェイ バインドを含む VNI で、ハイブリッドまたはマルチキャスト レプリケーション モードがサポートされない**
L2 VXLAN から VLAN へのブリッジ用 VTEP として使用されるハードウェア ゲートウェイ スイッチは、ユニキャスト レプリケーション モードのみをサポートします。

回避策：ユニキャスト レプリケーション モードのみを使用します。

- **問題 1995142：ホストを vCenter Server インベントリから削除したあと、レプリケーション クラスタから削除されない**
ユーザーがレプリケーション クラスタにホストを追加し、該当のホストをクラスタから削除する前に、vCenter Server インベントリから先に削除すると、ホストがクラスタに残ったままになります。

回避策：ホストを削除するときは、必ずレプリケーション クラスタから先に削除します。

- **問題 2085286：ブリッジされたすべてのインターフェイスにルーティング論理インターフェイスがあるときに、これらのインターフェイスをすべて削除すると、ホストから分散論理ルーターが削除される**
分散論理ルーターに n 個の論理インターフェイスと n 個の論理仮想ワイヤーがあるときに、同じ分散論理ルーターのブリッジに使用されている仮想ワイヤーとブリッジをすべて削除すると、この問題が発生します。

ルーティング論理インターフェイスに使用されている仮想ワイヤーは、いずれもブリッジに使用しないでください。すべてのルーティング論理インターフェイスでブリッジが有効になっている場合、すべてのブリッジを同時に削除することはできません。

セキュリティ サービスに関する既知の問題

- **問題 2186968：コンテナセットの API 呼び出しで静的 IP セットが通知されない**
サービス アプライアンスを使用している場合、パートナー サービス マネージャとの通信で NSX が IP セットを使用しないことがあります。これにより、パートナー ファイアウォールが接続を誤って許可または拒否する可能性があります。

回避策：回避策については、VMware サポートにお問い合わせください。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB57834](#) を参照してください。

- **問題 1854661：Cross-vCenter Server 環境で NSX Manager の切り替えを行うと、フィルタリングされたファイアウォール ルールにインデックス値が表示されない**
ルールのフィルタ条件を NSX Manager に適用し、別の NSX Manager に切り替えると、フィルタリングされたルールのルール インデックスが「0」になり、ルールの実際の位置が表示されません。

回避策：フィルタをクリアして、ルールの位置を表示します。

- **問題 1474650：NetX を使用している場合、ESXi 5.5.x または 6.x ホストで「ALERT: NMI: 709: NMI IPI received」というパープル スクリーンが表示される**
サービス仮想マシンが大量のパケットを送信または受信すると、DVFilter が CPU を占有し続けるため、

ハートビートが失われ、パープル スクリーンが表示されます。詳細については、[VMware のナレッジベースの記事 KB2149704](#) を参照してください。

回避策：NetX の最小要件を満たす次の ESXi バージョンに ESXi ホストをアップグレードしてください。

- ESXi 5.5 パッチ 10
- ESXi 6.0U3
- ESXi 6.5

- **問題 1787680**：NSX Manager が移行モードにある場合、ユニバーサル ファイアウォール セクションの削除に失敗する
移行モードで NSX Manager のユーザー インターフェイスからユニバーサル ファイアウォール セクションを削除し、発行しようとする、発行に失敗し、その結果 NSX Manager をスタンドアロン モードに設定できなくなります。

回避策：Single Delete Section REST API を使用してユニバーサル ファイアウォール セクションを削除してください。

- **問題 1689159**：フロー モニタリングのルールの追加機能が ICMP フローに対して適切に動作しない
フロー モニタリングでルールを追加する際、[サービス] フィールドに明示的に ICMP に設定せずに空白のままにすると、サービス タイプが「任意」のルールが追加されます。

回避策：[サービス] フィールドを更新して ICMP トラフィックを反映します。

- **問題 1632235**：ゲスト イントロスペクションのインストール中、ネットワークのドロップダウン リストに「ホストで指定済み」のみが表示される
アンチウイルスのみのNSX のライセンスおよび vSphere Essential または Standard ライセンスを使用してゲスト イントロスペクションをインストールする場合、ネットワークのドロップダウン リストには既存の分散仮想ポート グループのみが表示されます。このライセンスは分散仮想スイッチの作成をサポートしていません。
回避策：これらのライセンスのいずれかを使用して vSphere ホストにゲスト イントロスペクションをインストールする前に、まず[エージェント仮想マシン設定] ウィンドウでネットワークを指定します。

- **問題 1652155**：REST API を使用してファイアウォール ルールを作成または移行しようとする、特定の状況で失敗して、HTTP 404 エラーが発生する
次の状況では、REST API を使用したファイアウォール ルールの追加または移行はサポートされません。

- autoSaveDraft=true に設定されている場合の一括処理でのファイアウォール ルールの作成
- 複数のセクションへのファイアウォール ルールの同時追加

回避策：ファイアウォール ルールの作成または移行を一括で実行する場合、API 呼び出しで autoSaveDraft パラメータを false に設定します。

- **問題 1509687**：一度の API 呼び出しで 1 つのセキュリティ タグを多数の仮想マシンに割り当てる場合、サポートされる URL は最長 16,000 文字である
URL の長さが 16,000 文字を超える場合、単一の API で 1 つのセキュリティ タグを多数の仮想マシンに同時に割り当てることはできません。
回避策：パフォーマンスを最大にするには、一度の呼び出しでタグを指定する仮想マシン数を最大 500 台にしてください。

- **問題 1662020**：分散ファイアウォールのユーザー インターフェイスの [全般] および [パートナーセキュリティ サービス] セクションに、「前回の発行操作はホスト <ホストの番号> で失敗しました」という内容のエラー メッセージが表示され、発行操作に失敗する場合がある
任意のファイアウォール ルールを変更した後、ユーザー インターフェイスに「前回の発行操作はホスト <ホストの番号> で失敗しました」というエラー メッセージが表示されます。ユーザー インターフェイスに表示されるホストは、正しいバージョンのファイアウォール ルールを使用していない可能性があり、そのためにセキュリティ上の不備や、ネットワークの中断が発生します。

この問題は、通常次の状況で発生します。

- NSX を最新のバージョンにアップグレードした後
- ホストをクラスタの外部に移動した後で、再びクラスタに戻した場合
- クラスタ内のホストを別のクラスタに移動した場合

回避策： リカバリを行うには、影響を受けるクラスタで強制同期を行う必要があります（ファイアウォールのみ）。

- **問題 1481522**： 6.1.x から 6.2.3 へのファイアウォール ルール ドラフトの移行は、これらのリリース間でドラフトの互換性がないためにサポートされない

回避策： なし。

- **問題 1628679**： ID ベースのファイアウォールを使用すると、削除されたユーザーの仮想マシンが Security Group の一部であり続ける

Active Directory サーバで、ユーザーをグループから削除しても、ユーザーがログインしている仮想マシンはセキュリティ グループにそのまま所属し続けます。これにより、ハイパーバイザーの仮想マシン vNIC でファイアウォール ポリシーが保持され、サービスへの完全なアクセス権限がユーザーに付与されます。

回避策： なし。これは、設計上想定される正常な動作です。

- **問題 1496273**： ユーザー インターフェイスで、本来 Edge に適用できない、受信/送信の NSX ファイアウォール ルールを作成できる

Web クライアントでは、1 つ以上の NSX Edge に適用される NSX ファイアウォール ルールの作成が誤って許可されてしまいます。これは、ルール内に「受信」または「送信」方向に移動するトラフィックがあり、PacketType が IPV4 または IPV6 の場合に発生します。NSX は、このようなルールを NSX Edge に適用できないため、ユーザー インターフェイスからこのようなルールを作成できないようにすべきです。

回避策： なし。

- **問題 1494718**： 新しいユニバーサル ルールを作成できず、既存のユニバーサル ルールを フロー モニタリングのユーザー インターフェイスで編集できない

回避策： フロー モニタリングのユーザー インターフェイスからユニバーサル ルールを追加または編集できません。EditRule は自動的に無効になります。

- **問題 1066277**： 229 文字を超えるセキュリティ ポリシー名が許容されない

Service Composer の [セキュリティ ポリシー] タブにあるセキュリティ ポリシー名のフィールドでは、229 文字まで許容されます。ポリシー名の先頭には内部でプリフィックスが付加されるためです。

回避策： なし。

- **問題 1443344**： サードパーティの VM-Series の特定のバージョンがデフォルト設定で NSX Manager と連携しない

NSX 6.1.4 以降のコンポーネントには、SSLv3 をデフォルトで無効にするものがあります。アップグレード前に、NSX デプロイと連携しているすべてのサードパーティのソリューションが SSLv3 通信に依存していないことを確認します。たとえば、Palo Alto Networks VM-series ソリューションのいくつかのバージョンには SSLv3 のサポートが必要です。そのため、ベンダーにバージョンの要件について確認する必要があります。

- **問題 1660718**： Service Composer のポリシーのステータスが、ユーザー インターフェイスには「処理中」と表示され、API の出力には「保留」と表示される

回避策： なし。

- **問題 1317814**： Service Manager の 1 つがダウンしている間にポリシーに変更が加えられると、Service Composer が同期されなくなる

複数の Service Manager の 1 つがダウンしているときにポリシーの変更を行うと、変更に失敗し、Service Composer が同期されなくなります。

回避策： Service Manager が応答していることを確認して、Service Composer から強制同期を発行します。

- **問題 1070905**：ゲスト イントロスペクション およびサードパーティ製セキュリティ ソリューションで保護されたクラスタでは、ホストを削除して再追加できない
ゲスト イントロスペクションおよびサードパーティ製セキュリティ ソリューションで保護されたクラスタからホストを削除する場合、vCenter Server からホストを切断して削除すると、同じホストを同じクラスタに再追加しようとしたときに問題が生じることがあります。
回避策：保護されたクラスタからホストを削除するには、まず、ホストをメンテナンス モードにします。次に、保護されていないクラスタか、すべてのクラスタの外にホストを移動してから、ホストを切断して削除します。
- **問題 1648578**：新しい NetX ホストベースのサービス インスタンスの作成時に、NSX でクラスタ/ネットワーク/ストレージの追加が強制される
vSphere Web Client からファイアウォール、IDS、IPS などの NetX ホストベース サービス用に新しいサービス インスタンスを作成する際に、クラスタ/ネットワーク/ストレージの追加が不要な場合でも強制されます。
回避策：新しいサービス インスタンスの作成時に、クラスタ/ネットワーク/ストレージに関する情報を追加し、フィールドに入力します。これにより、サービス インスタンスの作成が許可され、操作を続行できるようになります。

監視サービスに関する既知の問題

- **問題 1466790**：NSX トレースフロー ツールを使用してブリッジ ネットワーク上の仮想マシンを選択することができない
NSX トレースフロー ツールを使用して、論理スイッチに接続されていない仮想マシンを選択することはできません。つまり、L2 ブリッジ ネットワーク上の仮想マシンの場合、トレースフロー検査の送信元アドレスまたは宛先アドレスとして仮想マシン名を選択することはできません。

回避策：L2 ブリッジ ネットワークに接続された仮想マシンの場合、インターフェイスの IP アドレスまたは MAC アドレスを使用すれば、トレースフロー検査の宛先として指定できます。L2 ブリッジ ネットワークに接続された仮想マシンを送信元として選択することはできません。